

2009

Annual Report



ヴァヌアツ共和国 タン大島



Japan Dental Mission
NPO法人ジャパン デンタル ミッション



Contents

代表理事挨拶	1
活動地域紹介	2
海外活動報告	4
7月ヴァヌアツ共和国	4
3月ヴァヌアツ共和国	8
11月フィリピン共和国	11
2月フィリピン共和国	14
海外活動参加者の声	18
国際交流	28
八尾市立西山本小学校とレナケル小学校との国際交流	28
寄付活動	33
報道関係	35
国内活動	36
学術報告	37
1) 歯周病に関して	37
2) 齶蝕に関して	38
4) 検診結果から	40
ジャパン デンタル ミッションについて	45
協力者名簿	46
2010年度海外活動予定	47
理事紹介	48



代表理事挨拶

JDMの活動は1983年より始まり、今年で27年目になります。我々はヴァヌアツの口腔衛生向上、学校教育発展、そして子供達の識字率向上のために、活動中に毎回ヴァヌアツ政府の保健省、教育省とのミーティングを行っています。今年度はヴァヌアツ政府からの要請により、歯ブラシ、口腔衛生啓蒙ポスター、鉛筆、文房具、運動具(サッカーボール、バレーボール)等を寄付することになりました。

これを受け、日本国内で寄付を募ったところ、多くの皆様から多大な寄付を頂き、40フィートのコンテナに715箱のダンボール、約7トンの物資を3月に船便で送ることが出来ました。

ヴァヌアツ共和国は発展途上国であり、貧困で物資に乏しく、子供達は勉強したくとも十分な環境が整っていません。例えば、鉛筆は大変貴重なものであり、1本の鉛筆を半分に折り、2人で分けあって使っているのが現状です。日本の子供達にとって発展途上国の子供達に鉛筆を寄付することにより、少しでも国際奉仕に貢献し、ボランティア精神を学ぶきっかけ作りになって欲しいという願いを込め、小学校(8校)、中学校(1校)に呼びかけたところ、多くの鉛筆を寄付して頂くことが出来ました。

また、国際ソロプチミスト大阪-梅田様のご寄付により、タンナ島のレナケル病院で、母子保健センターの増設が行われました。母子の健康管理に寄与出来たことは大変重要なことであります。これらの寄付は企業、団体、ロータリークラブ、ソロプチミスト、小学校、中学校、個人などの多くの方々のご理解とご協力の下で成し得た事業であり、深く感謝しています。

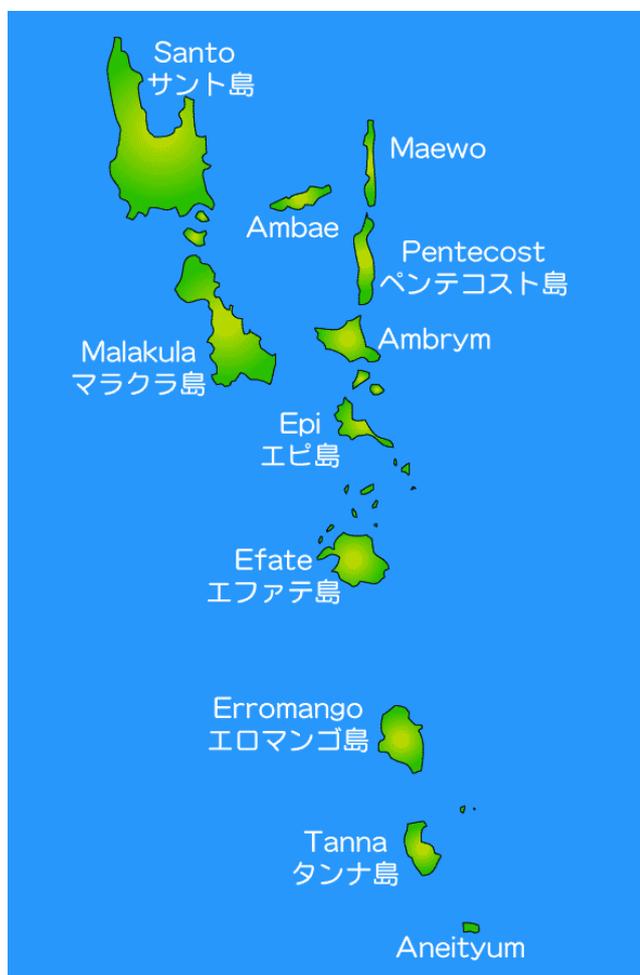
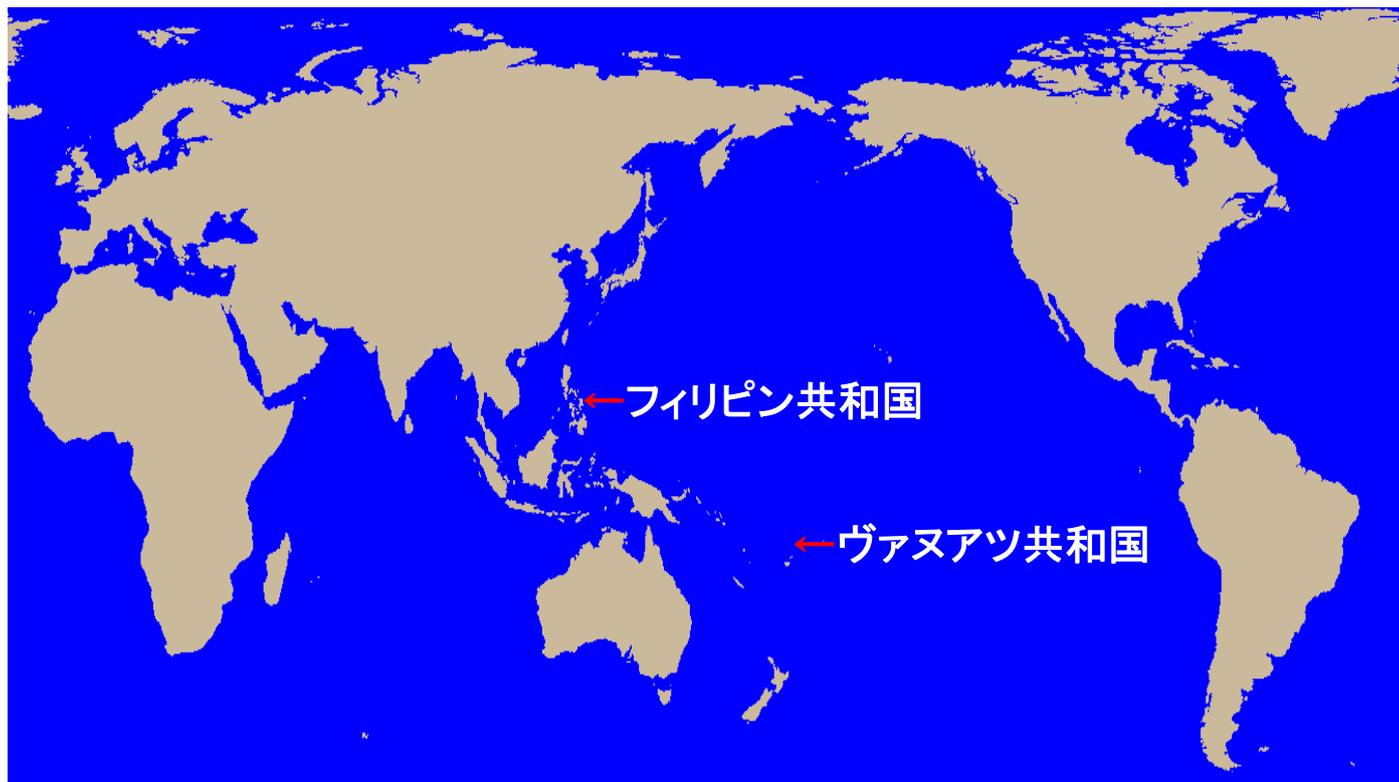
フィリピン カオハガン島では新たに2名の看護師が誕生しました。そのうちの一人がヴァージニアです。今年度は彼女をホームステイで日本に招き、3カ月間、日本語と口腔衛生の研修を行う予定です。彼女が帰国後、JDMの活動中には治療のヘルプをして頂き、JDMが帰国後も島民のオーラルヘルスケアをして頂く計画です。長年にわたり小学校で検診を行い、予防処置(シーラント)することにより、永久歯の保存ができるようになりました。その結果、口腔内の環境が改善されて、カリエス(虫歯)が減少してきたことは喜ばしいことです。最近カオハガン島より口伝てで他の島々から治療を受けに来る人が多くなり、カオハガンでの我々の活動が定着してきたことを実感しています。

これからも両国の発展と口腔衛生向上の為、尽くしてまいりますので、皆様方のご理解とご協力宜しくお願い致します。

代表理事 沢田 宗久



活動地域紹介



ヴァヌアツ共和国



- 紹介: 83の島から成り立つ
- 人口: 約23万人
- 首都: ポートヴィラ (エファテ島)
- 言語: ビシュラマ語、英語、仏語
- 宗教: ほとんどがキリスト教
- 寿命: 不明
- 生産物: コブラ (ヤシ)、牛肉
- 活動地: マレクラ島、タンナ島

フィリピン共和国



- 紹介：7,109の島から成り立つ
- 人口：約8,857万人
カオハガン島の人口は約450名
- 首都：マニラ（ルソン島）
- 言語：フィリピン語、英語、ビサヤ語
- 宗教：ほとんどがキリスト教
- 寿命：男65歳、女70歳（平均）
- 生産物：バナナ
- 活動地：カオハガン島（セブ州）

海外活動報告



ヴァヌアツ共和国
Republic of Vanuatu
タンナ島・マレクラ島

7月ヴァヌアツ共和国

場所 ヴァヌアツ共和国・タンナ島

期間 2009年7月12日～7月21日

参加メンバー

(上段左から) 関根 淳(D) 上崎 秀美(D) 原 順子(V)

中西 謙一郎(V) 大西 富子(H) 山本 喜代(V)

(下段左から) 川田 修弘(V) 沢田 宗久(D) 関根 寿恵(D)

垣内 万智子(H) 田代 博一(V) 村上 まさ子(V)



7月12日(日曜日)



9:00関西国際空港集合。10:50に関西国際空港を
経ち、16:30にシンガポールに到着。0:25の飛行機
まで自由時間となる。夕食を空港内ですませ、予定
通り0:25にシンガポールを発った。この日は機内での1

泊となった。

7月13日(月曜日)

9:55にシドニーへ到着する。空港で朝食をすませ、
12:40にシドニーを発ち、17:00ポートビラに到
着。各自の荷物を運び出し、迎えの車に乗り、宿泊先と
なる Melanesian Hotel へ向かう。ホテルにて東京組の関根
夫妻と合流。夕食はホテルの近くのタイ料理屋でミーテ
ィングを兼ねて済ませた。



7月14日(火曜日)

7:00起床。朝食をホテルのバイキングでとり、8:
30に迎えの車が到着。Dr. 沢田はポートビラの政府と
ミーティングのため、明日の午前中にタンナで合流する事
となった。ポートビラの空港にて活動中にお世話になる J
I C Aの人達と会う。そして10:00ポートビラを発ち、
10:40にタンナ島に到着する。活動中の宿泊先となる
ゲストハウスヘトラックにて移動する。そして15:00
の病院の診療を開始するメンバーと、ゲストハウスを掃除
するメンバーに分かれての活動開始。この日の診療はE X
T 3名、CR 3名、クリーニング1名の計7名だった。
4:30撤収準備。ゲストハウスに戻り夕食をとる。ちな
みにゲストハウスのシャワーはお湯が出ず、お風呂に関し
ては日が暮れるまでに入るのがベストだった。夕食の途中
J I C Aの方が訪ねて来られた。
この日のミーティングでは活動中の昼食はゲストハウスに
戻って食べる事、健康管理のために食事のメニューは暖か

い物にするなどの話し合いが設けられた。

7月15日(水曜日)

7:00起床。午前中はトゥフ小学校組(V. 中西 V. 村上、D. 関根、H. 大西)、病院組(V. 山本 H. 垣内、D. 上崎、D. 関根)、食事組(V. 田代 V. 原)に分かれての活動となった。



8:30にPICK UP。D. 沢田とV. 川田に合流するためにトゥフ小学校に向かう前に空港へ向かう。向かう途中で、D. 沢田、V. 川田に合流D. 沢田とV. 川田は病院へ。トゥフ小学校にてサッカーボールと歯ブラシの寄付。ブラッシング指導、歯科検診を行った。午後はロカタイ小学校組(H. 大西、H. 垣内、V. 山本)、病院組(D. 上崎、D. 関根、V. 中西)、レナケル小学校組(D. 沢田、V. 川田、D. 関根、V. 村上)、食事組(V. 田代、V. 原)に分かれる。また、病院の保管庫に冷蔵庫があるとの事でゲストハウスへと持ち込む。この日は、サッカーのイベントがあったようで患者数は少なかった。小学校チームの報告では、タンナ島では歯の衛生面において良好と、そうでない子の差が激しいとのデータが出た。

7月16日(木曜日)

7:00起床。朝食をすませ8:20にPICK UPの車が到着。午前中はレナケル小学校組(D. 沢田、V. 川田、D. 関根、V. 中西)、病院組(D. 関根、H. 大西、H. 垣内、V. 山本)、食事組(V. 田代、V. 原、V. 村上)に分かれる。病院に車で向かい、小学校組は徒歩にて移動。レナケル小学校にて昨日まだ検診を受けていない者のチェックを行った。

午前中は12:00に終了。ゲストハウスへ戻り昼食を済ませ午後午前と同様のメンバーでの活動。レナケル小学校では生徒、校長先生、JICAのみなさんとグラウンドでの羽子板と手作りのサイコロの交換が行われた。ヴァヌ

アツと日本における文化交流の良さというものを実感した。そして記念撮影を終え、病院組と合流してゲストハウスへと戻り、夕食をとった。



7月17日(金曜日)

6:00起床。6:30に朝食をとり病院組(D. 上崎、D. 関根)、食事組(V. 田代、V. 原)、残りのメンバーでディバイン小学校とWhite Sandへ向かう事となった。7:00にPICK UPの車が来る予定であったが、前日の打ち合わせに不備が生じた。そのため車を再度手配し、8:30にようやくPICK UPの車が到着。病院組が先に向かい、遅れて到着した車にディバイン小学校、White Sand組が乗ることとなった。

ディバイン小学校へ向かうが、休校というハプニングが起こる。仕方なくWhite Sandに向かった。こちらでは2ヶ月に1回、ニューカレドニアからボランティアでドクターが来られるらしい。診療は2日間(土曜日と日曜日)で1日当たり15人ほどの患者を診るとのこと。診療室の方も充填器、滅菌器、縫合セットなど充実していた。このWhite Sandの裏から見える海は素晴らしい

景色であった。そしてゲストハウスへと戻り昼食を済ませ13:30に午後のPICK UPの車が到着。午後は病院のみでの活動となった。この日もフェスティバルの影響で患者が午前11名、午後4名と少なかった。この日の夜はJICAの方達がゲストハウスへと来られ、夕食をとりながら、お酒を飲み楽しい夜となった。明日、活動最終日という事で片付けの後、夕方からヤスール火山を見に行く予定となる。しかし夜から雨が降り出し、天候は崩れていった。



7月18日(土曜日)

7:00起床。昨夜から降り続いていた雨は上がっていたが、空は雲に覆われていた。活動最終日のこの日は病院組(D. 上崎、D. 関根夫妻、H. 大西、H. 垣内、V. 山本)、食事組(D. 沢田、V. 川田、V. 中西、V. 田代、V. 原)に分かれた。前日に続き、またもPICK UP予定の車が来ず、病院組は徒歩での移動をとった。午前中にゲストハウスへレナケル小学校の校長先生が来られ、JDMのTシャツとポロシャツのプレゼント、そして校長先生からは、沢田先生に大阪船場ロータリー、八尾西山本ロータリー、津崎先生への感謝状を手渡された。そして日本との文化交流についての話し合いが行われた。12:00に昼食を済ませ、ゲストハウスの清掃、冷蔵庫を病院裏の保管庫へと片付けに向かい、病院の撤収作業を行なった。15:00、ヤスール火山に行く予定であったが、天候が回復しないため中止となってしまった。楽しみにしていただけに残念であった。そして夕食を済ませて、各自が荷物の整理など明日ゲストハウスを発つ準備を済ませ、床についた。

7月19日(日曜日)



7:30にPICK UP予定の車が来ず、予定通りに車が運ばない。ゲストハウスの裏に住む少年に頼んで、朝食をとる予定であるホワイトオーシャンリゾートへと車で送ってもらった。こちらで朝食を済ませ、11:45PICK UP予定の車が来るまで自由時間となった。各自が海水浴や日光浴などを楽しんだ。そして空港へと向かった。13:10にタンナを発つ事となった。そして、14:00ポートビラへ到着。ここで活動中お世話になった関根夫妻とお別れする事になった。本当にお二人にはお世話になったので、お別れする時が辛かった。お二人はニューカレドニア経由で成田空港へ向かわれるとの事。本当にお疲れ様でした。そして宿泊先となる、行きと同じMelanesian Hotelへローリー氏の車にて移動した。そして、D. 上崎、H. 大西、H. 垣内、V. 中西で、JICAの事務所へ今回活動に使用した電源関係、吉竹先生の光照射器を保管するため向かう事となった。そしてJICAの方の歯科検診を数名行なった。そしてホテルへ戻り、夕食まで自由時間となった。今回参加されたJDMの方、数名が疲れの影響で体調を壊され、夕食は数名でとる事になった。そしてホテルでみなさん疲れを癒し、明日ヴァヌアツを去る事になった。

7月20日(月曜日)

各自部屋にて朝食を済ませる事になり、7:00PICK UPのローリー氏の車が到着する。そして空港へ向かうが、空港の受付カウンターにて旅行バッグや荷物を1度シンガポールにて降ろさないといけないというハプニングが起こった。なおかつ飛行機も9:00発の予定が1時間遅れるという事になってしまった。さすがにみなさん疲れしているために苛立ちを隠せなかった。そして10:00ポートビラを発ち、11:40にシドニーに到着する。休む

間もなく15:25シドニーを離れ、シンガポールへ向かった。21:50にシンガポールに到着。長時間の移動のため、みなさん疲れはピークだった。ここで川田さんとお別れする事になった。川田さんも活動中、いろいろ協力していただいた方だ。本当にお疲れ様でした。そして1:10にシンガポールを立ち、関西国際空港へと向かった。この日は機内での1泊となった。

7月21日（火曜日）

機内での朝を迎え、朝食を機内で済ませた。予定通り8:40無事、関西国際空港に到着。各自荷物を受け取り、解散式を終えた後、記念写真を撮り、そして各自解散した。

総括

昨年、子供たち、島民には、I'll be back! といいながら帰ってきました。今年は、チームリーダーとしてタンナ島 関西から9名 関東から2名 マレーシアから1名 総勢12名うち歯科医4名、衛生士2名、ボランティア6名でのミッションでした。

今回はタンナ島への行く初日から 重量オーバーでコンテナが3つ次便になったり、あるはずの JDM の冷蔵庫が倉庫になかったりと ハプニング続きで、さらに、前年と担当者が代わり病院のトップの非協力的な態度、約束が守られないこと、など戸惑うことばかりだったのです。さらに、去年あれだけ頼った、メディカルナースのティミーさんが 他島へ研修、不在だったのもショックでした。それにもかかわらず全員で文化交流、業務記録、診療統計、検診統計、生活改善、写真記録 分担していただき感謝しております。

結果として、今年は島のイベントもかさなり患者数も検診数も少なかったのですが、その反面他島からも JICA のメンバーの方々が集まり貴重な情報を得られました。政府、州、地域と連携の取れてないことおびただしく、国民性の違い、『郷に入っては、郷に従え』とも言うようにこれも、それもみんな含めて ヴァヌアツかとも思いました。また、人々の生活、私の少ない経験でも去年とは、何か違う そう、車が急に増えたように感じます。去年は 島に数台と聞いていたのに、今年はいたるところに流しのトラックが走り、なにか島の経済に変化があるような気がしました。

日本は、蒸し暑い梅雨の真最中に赤道越えし、シンガポール、シドニー経由で秋風のふく涼しいヴァヌアツへ それもこれも新型インフル発生のせいで 往路復路とも皆さんご苦労様でした。多少体調を崩された方もおられました

が、全員無事帰国できチームリーダーとしては非常に喜ばしいことでした。また、配慮、気配りの足りないところは全員で支えていただき非常に勉強になりましたし、時節柄ミッションの使命は、全員が無事帰国することと痛感いたしました。

また、来年も皆さん、ご縁があれば会えることを祈念して締めくりたいと思います。



学校名	日程	受診者	C1	C2	C3	C4
TUFU	7/15	160人	83	24	5	9
ROUKATAI	7/16	46人	20	9	4	4
LANAKE L	7/15.16	156人	133	49	8	19

	7/14	7/15	7/16	7/17	7/18
抜歯	4本	7本	11本	8本	0本
充填・CR	3本	3本	3本	2本	0本
セメント充填	2本	0本	16本	5本	0本
SC	1人	5人	13人	5人	1人
検診・TBI	0人	7人	4人	4人	1人
患者数	7人	18人	26人	15人	2人
					総患者数 68人

3月ヴァヌアツ共和国

場所 ヴァヌアツ共和国

期間 2010年3月20日～3月25日

参加メンバー 沢田宗久、栗山雅行

JDM とヴァヌアツとの間で調印している Oral Health Program の大きなイベントとして、下記の2件の式典のためにポートヴィラとタンナ島を訪問した。

1. 寄付品の授与

JDM を含め、日本国内の29の企業、ロータリークラブ、学校、個人の方々からの多くの寄付品(約2400万円相当の歯ブラシ、ノート、文房具、ボール、口腔衛生啓蒙ポスターなど)を40フィートのコンテナに詰めてヴァヌアツ保健省、教育省に贈った。

3月22日にWHOのコンフェレンスルームに於いて保健省主催で授与式のためのセレモニーが行われた。JDMからは沢田代表の挨拶、ヴァヌアツ保健省からは次官の挨拶が交わされた。その後、歯ブラシ、鉛筆を段ボール箱1個ずつ授与し、他の寄付品については目録として詳細のリストを贈った。

主な出席者は下記。

JDM 沢田代表、栗山理事

保健省 次官 Mr.Mark Bebe、
首席役員 Rory 氏、Toumel 氏

WHO 連絡将校 Mr.Bernard Fabre

JICA 中村所長、神保氏

税関 役員 Mr.Ben Leeshi

この模様は後日、新聞記事に載る予定。



沢田代表の挨拶



栗山理事の挨拶



寄付品をJDMからヴァヌアツ保健省、教育省に授与
今回、寄付をして頂いた団体、個人の皆様

(敬称略、順不同)

株式会社クリエイト 不二印刷株式会社

株式会社アド・ダイセン 株式会社ナカガワ

セキセイ株式会社 大日本除虫菊株式会社

大阪船場ロータリークラブ 八尾ロータリークラブ

コクヨ S&T 株式会社 大阪府歯科医師会

太平工業株式会社 全日本ブラシ工業協同組合
 シンク株式会社 株式会社 GreenPath
 株式会社サクラクレパス ハグルマ封筒株式会社
 大阪市立開平小学校 大阪市立中央小学校
 大阪市立玉造小学校 大阪市立南大江小学校
 大阪市立中大江小学校 大阪市立高津小学校
 大阪市立南小学校 八尾市立西山本小学校
 大阪市立昭和中学校 橋本 雄司 大磯 隆一

2. タンナ島レナケル病院の母子保健センターの 拡張工事完了セレモニー

主な出席者

保健省大臣 兼 Tafea 州知事 Mr. Hon Ken Osea

保健省地方局長 Mr. Esau Naket

JDM 沢田代表・栗山理事

JICA 神保氏

保健省 州首席役員、政府役員代表、Nicholetan 議会 会長、議員



沢田代表から保健大臣に鍵の受渡

国際ソロプチミスト アメリカ 日本中央リジョン大阪—
 梅田 殿の寄付により、母子保健センターの建物の拡張が行
 われた。新しく建て増しされた部分は患者の相談室、ファ
 ミリープランニングルームとして活用される。トイレやシャ
 ワールームも設けられている。

このオープニングセレモニーが3月23日に行われた。

ヴァヌアツ保健省大臣の挨拶から始まり、JDM 沢田代表
 の挨拶、レナケル病院の責任者 Esau Naket 氏の挨拶が行わ
 れた。その後、テープカットの後、沢田代表から保健省大
 臣に鍵が手渡された。式典後、ヴァヌアツ伝統の飲み物で
 ある、カバを保健省大臣、JDM チーム、レナケル病院幹部
 で飲み交わす儀式があり、歓迎の伝統料理であるラブラブ
 が提供された。このセレモニーの様子は3月24日正午

のヴァヌアツ TV のニュースで放映された。



保健大臣、レナケル病院代表者と寄贈ボードの前で



建て増しされたファミリープランニングルーム



建て増しされた建物の外観

3. レナケル小学校への寄付

レナケル小学校においては全生徒（幼稚園児も含め）に
 集合してもらい、鉛筆、歯ブラシの寄付を行った。子供達
 は大変な喜びようで歓声を上げ、興奮していた。



歯ブラシ、鉛筆を子供達に寄付

4. VILA Central Hospital とのミーティング

もう一つの大きな目的はヴィラ中央病院の酸素製造装置についてのミーティングである。

現状、酸素製造装置の部分的な故障により、酸素タンクの不足で、病院での手術が十分に出来ない状態であった。訪問前には故障中の装置の部品の交換を依頼しており、要する費用は約 200 万円と聞いていた。しかし、装置はかなり古く、修理の繰り返しで、修理代も累積するとかなりかさんでいた。今回、日本から 200 万円の寄付の目処は立っていたが、この状況で修理を行っても、いつまで正常動作が続くかは疑問であるという病院側、JDM の見解を出した。実際、2010 年 2 月に修理を行った

部品は動作したが、また別の部品が故障中であった。これでは資金の無駄遣いになると判断し、故障修理のための寄付は止めることに決定した。現状は酸素を外部組織から年間 Vt24,000,000 分購入している。装置を新しい物と入れ替えるには約 Vt60,000,000 (オーストラリア製) 必要との話であったが、仕様の詳細を調査し、他社製で安価で購入可能かどうかを今後検討することを JDM として協力する

ことを約束した。1 日に 15 シリンダー (15,000Litter) の酸素を作る能力があれば、外部組織から購入する必要はなくなる。



5. 教育省教育担当役員 Mr. Roy Obed とのミーティング

今回の寄付品の輸送料については保健省と教育省で折半するとのこと。寄付品の配布については、ポートヴィラなどの恵まれた地区よりも地方の恵まれない学校を優先的に配布したいという意向であった。これには我々も賛同した。まずは教育省から州事務所に送り、そこから各学校に配布される。ヴァヌアツでは今まで授業料は有料であったが、今年から無料となる。体育、保健などの授業も始まるので、寄付品を授業の中でも使っていきたい。

現状はフランス系とイギリス系で教育期間が違っているが、2012 年を目標に統一しようとしている。

日本とヴァヌアツの小学校の文化交流は大変興味深く、ありがたく思っている。7 月 30 日には独立記念の行事が行われるので、JDM の活動は、できれば 2 週間前くらいに来て頂ければありがたい、という内容であった。



Rory 氏、栗山、Roy Obed 氏、沢田、JICA 神保氏



11月フィリピン共和国

場所 フィリピン共和国・カオハガン島

期間 2009年11月21日～11月26日

参加メンバー

(上段左から)森千代美 H、上崎秀美 D、柿木幹司 V
藤田智昭 V、芳川栄治 D

(下段左から)垣内万智子 H、谷加奈子 H 平田敏彦 D
岡部優美 A、



11月21日(土曜日)

予定より1時間ほど遅れ19:30頃にカオハガン島到着。夕食後ミーティング。役割分担、診療時間、カルテの確認。

11月22日(日曜日)

9:30より診療準備行う。10:00過ぎから診療開始。時間の経過とともに患者の列が増えていった。初日より多数歯にわたる抜歯が多い。今回は技工士が参加していないにもかかわらず義歯希望がやはり数名いた。Dr.平田が体調崩したものの午後より診療に復帰する。



診査終了した治療待ちの列が教会内にあふれていた。夕食後のミーティングで、この状況では事故につながる可能性があるということで、翌日より椅子を外に並べ待ってもらうことにした。

11月23日(月曜日)

午前には DH 森、DH 谷が小学校の口腔衛生指導を行う。様々な食物が歯に与える影響を絵を使い、子どもに理解させた。その後、染め出しブラッシング指導を行う。

午後からは DH 森、DA 岡部、DR 芳川で学校検診を実施する。その後、治療が必要な子どもをすぐに教会へ移動させ優先的に治療する。検診時、低学年のクラスの欠席が多く翌日に呼んで行うことに。(虫歯の多い子どももほど欠席が特に多かった) また、どうしても義歯の希望者が予定より多く、印象は DH 森が行う。ガーゼ、グローブの在庫がわずかになり、使用に注意することとなった。



11月24日（火曜日）

朝から大雨。日本での業務の関係で、DH 垣内は6:00頃に島を離れ帰国の途につく。

前日時間がなく診療できなかった人、小学生の検診を欠席した子ども達を優先に行う。

DHが1人減った状況にもかかわらず、本日よりスクーリング希望者が急増する。

雨で教会内まで水浸しになり、その影響でエンジン・スクーラーのフットペダルが故障してしまう。

夕食後、小学校にて寄贈されたスクリーン・プロジェクターを用い映画鑑賞会を行う。夜遅い終了時間にも関わらず、多くの子どもが早い時間から集まり楽しんでいる様子が窺えた。劇中でキスシーンがあったが、みんなの「キャー！」という声と、子ども達が手で目を覆う様子を見て自分達の子どもの頃を思わず思い出してしまった。

11月25日（水曜日）



午前の診療は11:00までとし、その後在庫確認を約1時間で行う。昼食後、在庫についての問題点確認、運動会についてミーティングを行う。

2時間ほどの自由時間の後、運動会準備開始。天候もよう

やく回復し3:30からリレー、あめ食い競争、目回し競争、台風の目、玉入れ、綱引きを島民の子ども男女対抗と、島の大人達を男女に分け、そこにJDMメンバーが参加し大いに盛り上がる。参加賞は、歯ブラシにし、配布後、集合写真撮影を行う。



11月26日（木曜日）

5:30頃カオハガン島を出発する。

帰路では、航空機の遅れはなく、関空到着予定時刻より早めに到着する。集合写真撮影後、解散したが、少し遅れて沢田代表が出迎えに来てありがたかった。

チームリーダーの報告 by 平田敏彦

今回の大きな変化として、カカオハガン島のオーグステイナとバージニアが保健師の資格を取り、島に定住している。 崎山氏の希望としては、彼女達が今後のカオハガン島において島民の健康面全般で活躍してくれることを期待していた。彼女達は、成績も優秀で、今回のJDMの活動の中でも与えられた業務の理解度も高く、仕事に対しても非常に熱心であった。もし、実現するならば日本において短期間でも歯科に関する実践の研修ができれば、今後JDMの活動の中でかなりの戦力になるし、現地での予防活動についての効果を期待できる。これは崎山氏のみならず、今回参加したJDMのメンバーの総意でもあった。

また、今回は歯科技工士の参加がなかったため、義歯希望者は現地で印象だけ行い、模型を持ち帰り、義歯は日本で作成することとなった。次回、簡単なケースは完成して装着を予定することにし、困難なケースは咬合採得から現地で行うということにした。時間はかかるが、全てを先延ばしにするよりは、今回のように段階的な手立てを採ることも活動の中での選択肢の一つではないかと感じた。

現地到着が土曜日だったので、小学校の先生との協議が月曜日の朝になった。現在赴任している先生は私達の活動への理解が深く、検診や治療勧告などにもかなり協力を得ることができた。

今後、現地在住の保健師2名との連携が上手くいけば、JDMが目指す” 現地の人による継続的な予防と管理” を一日も早く実現できると確信した。



雨半分、曇り半分、ちよっぴりだけ晴れと、天気にはあまり恵まれなかったものの、DVDの上映会や運動会も事故なく開催することができ、最後の夜は子ども達による送別

会にメンバー全員が感動して島を後にした。

参加してくれたメンバーがそれぞれの力量を発揮し、スムーズな活動と円滑な運営にメンバーが一丸となり貢献してくれたおかげで最高に評価できる結果を実現できたものと感謝する。

データ

治療結果

	11/22	11/23	11/24	11/25	学校 検診 23日	学校 検診 24日	合 計
抜歯	30本	21本	27本	9本	22本	3本	112
充填	16本	9本	17本	1本	11本	1本	55
SC	4人	2人	8人	3人	2人	1人	20
義歯調整	1人	1人	0人	1人			3
DE 印象	6人	1人	2人	1人			10
DE 修理	1人	2人	1人	1人			5
DE BT	0人	1人	0人	0人			1
検診のみ	1人	2人	1人	0人	29人	2人	35
島以外	31人	14人	26人	0人			71
患者数	51人	34人	51人	14人	59人	5人	214



2月フィリピン共和国

参加メンバー

(上段左から)上崎 秀美(D)中辻 孝一(T)橋口 敦(T)
河内 光明(T)金田 直人(D)栗生 茉莉恵(D)
中根 綾子(D)木下 ゆかり(H)

(下段左から)森 千代美(H)垣内 万智子(H)川畑 小夜
(H)矢田 沙希子(H)崎山 克彦(島主)倉橋 寿会(H)

田岡 杏子(D)倉橋 朋子(H)

* 歯科医師(D) 歯科技工士(D) 歯科衛生士(H)



活動内容

2月11日(木) 晴れ

D r 沢田送られて9時55分関空を出発し、マニラ経由でセブに16時30分頃に到着。ゲートで崎山さん、青木さん、エマさん、トッペルさん達に出迎えられる。成田組と合流するため、DT河内をセブに残し、他の関空組はタクシーと船を乗り継いでカオハガンへ。船からみる夕日の美しさに感激。関空組は18時頃にカオハガンに到着。到着後すぐに教会にむかい、機械の動作のチェックや診療準備を行ってその後夕食。20時ごろに成田組がカオハガンに到着し、成田組の夕食後にミーティング。カルテの書き方や役割分担をする。今回は日数が少ないことに加え、小学校の休みも考慮して12日(金)に小学校全員の歯科検診をして、その翌日から治療することに。部屋割りをしてバンガローやキルト小屋で眠りにつく。

2月12日(金) 晴れ 夕方スコール

午前8時朝食。カオハガン独特のゆっくりとした食事で、診療開始時間を少し過ぎてしまったが、前日に準備が出来ていたの、すぐに診療することができた。教会には治療を待つ島民がすでに数人待っていた。

教会では診察し、デンチャーの印象やセット・抜歯・充填などを手分けして行う。教会の片隅でDH倉橋(朋)と

DH木下が追跡調査。元ホテルスタッフの青木さんの大きな協力のおかげで、1日目に9人/15人もの追跡をすることができた。9時30分からDH垣内とDH川畑が小学校へ行き、紙芝居を使つての保健指導、海で赤染め・歯磨きをする。低学年から順次行つていき、歯磨きが終わったクラスから、Dr 栗生とDH倉橋(寿)が歯科検診をしていく。



午後の診療は、Dr 栗生とDH倉橋(寿)が残りのクラスの歯科検診を行い、教会では保健指導に行っていた2人のDHも加わり、診療チェアへの他にベンチに寝転がって治療を行うなど、Dr、DT、DHそれぞれが自分のできることを精一杯にやっていた。夕食後、簡単なミーティングをして、母屋の横の広場で上映会を行う。『ドクタードリトル』音声小さく、聞き取りづらかったようだが、口をあけて見入っている子供達を微笑ましく思った。



2月13日(土) 晴れ 夕方スクール

小学生の治療をメインに診療を行う。今回小学校の歯科検診でチェックされた子供達のカルテを先生に渡して教会に連れてきてもらい、その場で先生が子供それぞれにカルテを渡してもらうようにした。3年生のみ午前中は島外アクティビティに出かけていたため、午後の治療となる。学校が休みなのに、この為に残ってくれた学校の先生に感謝です。小学生の治療以外では、デンチャーの印象や追跡調査4人を行う。



昼食後、午後の診療に教会に行くと、パンダノン島などの治療希望の30人近いリストメモを渡されたのには驚かされた！カオハガン島民を優先に治療を進め、全員を治療するには時間的に難しいことを説明した。午後の治療も抜歯や充填などを分担して行う。夕食時には恒例のたこ焼きパーティー。崎山さんやホテルスタッフも喜んで食べてくれました。上映会は昨日の音響の関係で、教会横のステージで『白雪姫』を上映した。





2月14日(日) 晴れ

午前中は、診療をしながら在庫整理やパッキングを行う。小学校の歯科検診でチェックされて逃げていたアンジェロを崎山さんが見つけて連れてきてくれて、今回も多くの人の協力で活動することができました。 昼食後フリータイムがあり、シュノーケルや釣りをして各々の時間を過ごす。 運動会はポントグの観光客が多く、開始(時間)が大幅に遅れたが、そのおかげでいつもより潮がひいて、広い運動場を確保することが出来た。プログラムはボール運び・音感ゲーム・パン喰い競争・玉入れ・リレー・綱引き。カオハガンのママ達の綱引きは最強です。運動会の最後には参加賞として歯ブラシを配る



2月15日(月) 晴れ 船の上でスクール

早朝5時、暗い中を出発。潮が引いていたので、船までしばらく歩く。歩かたびに夜光虫が光り、幻想的な景色に感動の声があがる。船で移動中、雨が降り出したが対岸に着くころには雨もあがる。マクタンの朝市でおかゆなどの朝食をとる。その後タクシーで空港に移動。マニラの空港で軽食をとり、成田・関西とそれぞれの飛行機で無事帰国しました。



総括

リーダー報告（上崎）

2010年2月11日～15日

上記5日間 歯科医師5名、歯科技工士3名、歯科衛生士7名の総勢15名で活動してきました。

いつもと違ったのは、実質2日半の中で2時間早かった大阪組到着と同時に設営状態、機器作動をチェックし翌日からの準備を済ませました。1時間かからず用意ができ、12日の朝からフル回転できたことと、11月の活動時印象をとってきた分も含めて咬合採得、作成・装着・新規印象など、技工部分の分割実施を進められできたこと。さらに、予約患者の完全実施は、連絡調整の理事と現地との打ち合わせ、事前調整のためものだと思います。

その他、11月から継続している現地スタッフの活用(カルテの抽出、検索など)、診療順番の周知方法(ガムテープに番号記載)などなど新たなアイデアも効果的でした。



小学校での媒体啓発活動、歯磨き指導、検診、教会での診療、技工すべて15名とスタッフは多く順調に経過しました。ただ、教会での診療はやはり人数、密度とも要求されるものも多かったようでどこかで線引きし、次回にということがあり心残りでした。

最終日、島民楽しみの運動会ですが今回は干潮で広大な砂洲が広がりいつもとは違った規模の開催となり子供たちもエキサイトしたようです。

最後に全行程終了し全員無事帰国お疲れ様でした。そして、いつものことながら不慣れなリーダーを支えてくれるメンバーの連携と頑張りの結果だと感謝して報告の言葉とさせていただきます。

島別受診者	
カオハガン	48人
カオハガンスクール	68人
パガンアン	9人
パンダノン	38人
カブルアン	1人
サンタロッサ	4人
ラブラブ	1人
セブ	2人
パングラオ	1人
合計	172人

活動内容	12日	13日	14日	合計
抜歯	51本	118本	21本	190本
CR	25本	46本	8本	79本
セメント	13本	149本	26本	188本
サホライド	2本			2本
SC	1人	6人	5人	12人
TBI		1人		1人
その他	3本			3本
義歯修理	3床	4床	1床	8床
義歯印象	19床	7床		26床
義歯バイト	8床	1床	2床	11床
義歯セット	3床	1床		4床
人数	56人	93人	23人	172人

海外活動参加者の声

中西 謙一郎(ボランティア)

『2009年7月タンナ島での活動に参加して』



自分の人生にとって初海外、初ボランティアが今回参加させていただいたタンナ島でした。出発前夜は期待と不安で1時間くらいしか眠れなかったのを覚えています。JDMの方達と上手くやっていけるだろうか、活動中に迷惑かけてしまったらどうしようなどマイナスな事ばかり考えていました。そして出発当日の日は訪れました。JDMの方達はみなさんとても優しい方ばかりで話やすいので、僕の緊張を和らげてくれました。なにせ初海外のため、飛行機での移動やタンナに向かうまでに降り立ったシンガポール、シドニーなど何もかもが僕にとっては新鮮でした。そのうち不安は消えて行き、期待だけが大きく膨らんでいきました。タン

ナに向かう機内から見た海の綺麗さに感動したのを覚えています。そしてタンナに着くやいなやトラックの荷台に乗り込んでの移動…。日本では考えられない事ばかりで、なにより驚いたのはヴァヌアツの方達の人なつこさ。手を振ると振りかえしてくれるし、向こうから挨拶してくれる。それが嬉しくて仕方ありませんでした。活動に関してもブラッシング指導、検診に積極的に参加してくれる子供達を見ていると、ボランティアのやりがいをととも感じました。個人的な事ですが、ゲストハウスの裏に住む少年とサッカーが共通の趣味という事もあり、仲良くなれたりと本当に今回参加できた事は自分にとって一生の宝となりました。日本では正直あまり前向きに物事を考えられない自分が、ヴァヌアツという国ではとても自分らしく前向きに過ごす事ができました。体調の方も壊したらどうしようと思っておりましたが、食事係の方達が作って下さった美味しいご飯や、周りのJDMの皆さんのサポートのおかげで大きな病気にもなる事ありませんでした。大げさに聞こえるかもしれませんが、僕にとってヴァヌアツは第二の故郷となりました。それぐらいインパクトが強く、参加できた喜びを感じています。日本に帰国してからも、ヴァヌアツで過ごした日々をふり返っています。何よりも今回共に参加させていただいたJDMの皆様、現地でお世話になった方達に心から感謝です。参加して経験した事を、自分の今後の人生に生かす事ができれば最高です。また機会があればぜひとも参加したいと考えています。本当に貴重な体験をありがとうございました。

村上 まさ子(ボランティア)

『2009年7月タンナ島での活動に参加して』

きらきらした子供たちの瞳とジャングルの緑の深さ。今では見ることもなくなった青洩をしっかりとらした男の子。トラックの私たちに何とか目を合わせて手を振ってもらいたいと真剣な眼差し。これはもう友好的であるかどうかを越えている。大人も子供も。JDMの個性的な人達と話せたのも収穫のひとつだった。「僕たちのライフワークにしようね。」と若いご夫婦。現地の人と良く話している私の質問にいつもの確に答えてくださった。「Kiyovァヌアツが合うねん。」と住民からどこに行っても好かれる女の子。…それでも毎回となると本当に頭が下がる。乗り継ぎの多さと、若者についていけない根性なしの私は最初に熱を出し、皆から手厚い看護をしてもらっ羽目に。記録係として入ったのにそれらしいことが出来たか

どうか。

小学校での検診中、意味もなく木に登ってこちらを眺めていた女の子がいたけど、あれはまったく子供時代の自分。

現地の食材に非常に興味がある上に自炊だと聞いていたのでどうなることかと心配していたけれど、手に入った物で料理をし、喜んでもらう食事を毎回準備する田代さん、原さんは大変な仕事量。牛肉が手に入り、硬くて犬にやろうかと話していた筋のところで肉じゃがをつくったのもおもしろく美味しかった。・・・食用バナナで。

夜に訊ねて来るジャイカの青年たちをもてなすのはよいことだけど、早朝から台所に立ち、休みなく料理している人にキリをつけて開放してあげるのも大切。隊員の1人です。

大西さんの気遣いが無かったら撮ることの出来なかったツフでの別れの場面など、後はフィルムが出来てくるのを待つばかり。



藤多 智昭(ボランティア)

『ボランティアを終えて』



私は、11月21日～26日にかけてフィリピンのカオハガン島に行き、JDMのメンバーの一員として初めて海外に行き、ボランティア活動をしました。

私自身歯科活動の内容はほとんど聞かされておらず、最終日の運動会を行うことしか頭にありませんでした。

初日の活動は実際に歯科助手としての活動で準備から専門的な道具をどこにおいていいのか、何をしたらいいにか分からず、何をしていたのか疑問がいっぱいでした。しかし、周りを見て何をするか、何をすればいいかなどの状況判断、JDMメンバーからの指示を受けることにより自分のすべき仕事内容がわかってきました。

現地の人は非常に虫歯が多く、歯磨きをする習慣がないことを知りました。また、患者の多さや、他の島からでもわざわざこの島まで移動して診療を受けに来ていたことにもびっくりしました。

二日目以降は、仕事内容も自分の中で明らかになっていたこともあり、診察や抜歯などでのライト当て、入れ歯を作る時の型はずし作業、器具の消毒、ガーゼ作りなど少しでもメンバーの助けになればと思い活動してきました。

最終日の運動会は、前もって競技を企画し、必要なものをそろえ、正直不安な気持ちで望みました。企画した競技は楽しんでもらうことができ、問題であった進行もメンバーの助けもありうまくできました。大学で学んでいた企画のプラン立て、実行がこの活動に参加し、初めて行うことができました。

食事也非常に楽しみにしていて、初めて食べるものや飲み物が多くあり、とても満足しました。

カオハガン島はとても海が綺麗で、毎日朝 5 時半に起き、海を散歩していました。その中で、島の子ども達との触れ合う

ことができました。木の実と一緒に石などを投げて落としたり、鬼ごっこをしたり、海の中に入り魚や貝など食べられる物を一緒に獲ったりしていました。夜は島の大人の方とお酒を飲んだり、歌を歌ったりとボランティア活動以外でも楽しむことができました。

最後の夜には島の小学生の子たちによる出し物が用意されていて、ダンス、歌がメインで、たくさん練習してくれたんだなあと感じ、この島で活動してよかったなとおもいました。

今回私は多くの人たちと交流を持ち、関わりたいと思い活動に参加させていただきました。島に来てこのことは達成できました。人のために何かできることを行うことの大切さ、何より歯の大切さを学びました。今回活動に参加したことで普段体験することのないことを体験し、多くのことを学びました。自分自身大きく成長できたのではないかと思います。

このような機会を与えて頂きありがとうございました。

柿木 幹司(ボランティア)

『ボランティアを終えて』

海外に訪れたのは何度かあるが、東南アジアは初めてだった。きっかけは、森先生の誘いだった。あまり話も聞かずに参加を決めた私は、驚きの連続だった。まず、ボランティアをすると聞いていたが、このように歯医者現場のようなことをすると思ってなかった。

今まで、ボランティア活動となると地域のゴミ拾いしかしたことがなかった。しかし、今回のボランティアは本格的だった。人のために少なくとも貢献したように感じた。歯科の治療の手伝いをしたが、いつも治療される立場の人間なのでそれが新鮮に感じた。治療している先生の背後から患者の口の中を見て、こうやって麻酔を打ったり、歯を抜いたりされたと自分に照らし合わせた。歯を抜くのはこんなに力があるのも知った。

一緒にいた先生や衛生士の先生も歯の治療について、なにもわからなかった私をととても優しく指導してもらえた。だから、ミスをするともなく、怪我をするともなかった。おかげで、歯科の現場での知識を増やすことができた。

現地の人は虫歯になった歯を治療し、歯を残すのではなく、すぐに抜きたがっていたのに驚いた。また、日本人に比べて歯がボロボロの人が多かった。日本では考えられないくらい歯の欠損だった。そのおかげで、歯を磨く習慣の大切さを知ったし、歯をこまめに磨こうとも思った。

海がとてもキレイだった。地面は透き通るように見えていたし、サンゴもたくさんあった。日本で行ったどの海よりもキレイだった。あまり泳ぐ時間がなかったのもっと泳ぎたかった。

島の人々はとても社交的だった。すれ違えば必ず挨拶をしてくれた。挨拶程度の日本語は知っていたし、みんな気さくだった。藤多君と一緒に貝や魚を獲りに早朝出かけたときも、島の人々が手伝ってくれたので大漁だった。子ども達も活発に手伝ってくれた。日本の子どもとは違い、殴る蹴るなどはあまりしてこず、手をつないできたり、砂を払ってくれたり、汗を拭いてくれたりしてくれた。帰る前日、子ども達みんなが、握手を求めてきたり、ハグをしてきたりしたのが新鮮に感じたし、とてもうれしかった。日本にはない現象だと感じた。

日本では当たり前の電気や水道も、カオハガン島ではとても貴重だった。寝ていた部屋では電気はなく、ランプで過ごしていた。初日はランプだけでは何も見えなかったが、2日目には見えるようになっていた。人間の慣れはすごいと思った。



また、視力がよくなったと勘違いしてしまった。水道は基本的に雨水で、シャワーは雨水だったのでとても貴重に使用した。お湯は出ずに水しかでなかった。気合を入れて浴びないといけなかったのが大変だった。このような経験ができたのはよかった。おそらく、この活動に参加しなければこのような経験をすることができなかつただろう。今後の自分の人生を大きく左右すると思う。これから私は社会人となるので、この活動に参加するのは難しくなると思う。だが、色々な形のボランティアがあると思うので、なにかの活動でこれからも携わりたい。

みなさんありがとうございました。

橋口 敦(歯科技工士)

『活動参加の感想文』



今回、初めて参加させて貰いました歯科技工士の橋口です。全てが初めてなことばかりで、同行していた皆さんや島民スタッフにご迷惑をおかけしたかもしれませんが、当の本人は非常に充実かつ楽しく義歯製作をさせていただきました。おいしい食事と心豊かな島民と触れ合う4日間で、日頃の生活の中で欠けていたモノの再認識と、生きる豊かさを感じてきました。参加して本当によかったと実感しています。また参加したいとおもいます。

岡部 優美(歯科助手)

『平成 21 年 11 月 21～11 月 26 日フィリピン・カオハガン島』

私には夢があります。私の夢は、自分が尊敬している人たちのように最幸の笑顔でキラキラ輝く人になり周りの人に影響を与えられる人になること。今まで自分が学んできたことを次は自分が伝える立場になりたい。そして、自分と出会って幸せといってくれる人をたくさん作ることです。その夢への通過点として、今の職場で2年以内にチーフになることが目標としてあります。チーフになるということは人の上に立ってまとめることが必要になります。色々な視点を持ち、スタッフ一人ひとりの良いところを引き出し、輝けるようにサポートする立場になるというその目標をかなえるためには、もっと自分の器を広げることが必要だと考えました。それが今回のボランティアに参加しようと決めたきっかけです。今までボランティア活動に参加したことはありましたが、海外で青空歯科診療というのは初めてで、院長以外のドクターのアシストにつくことも初めてでした。まったく動き方も要領も分からないところからの



スタートでしたが、その中で「自分が出来ることはなにか」というのを考えながら動くことができました。片言の英語とビサヤ語まじりの言葉でもなんとか症状や要望を聴くこともできました。ただ、要望を聴いていると、ほとんどの方が抜いてほしい。歯がないから入れ歯を作ってほしいというのが希望でした。うちの医院では予防に力を入れているので、子どもの6歳臼歯を抜かないといけないときはつらい時もありました。しかし、その経験があったからこそより歯の大切さを改めて学ぶこともできました。

日本に帰ってから学んだことをより多くの患者様に伝え、出来るだけ長い間自分の歯でおいしいご飯が食べられるように。笑えるようにサポートすることが私の役目だと思います。

島の方、子ども達はすごく純粋で一生懸命生きる姿をみて、日本の豊かさや自分のおかれている環境に感謝することもできました。

本当に楽しかったです。また参加させていただきたいと思います。

今回こんなすてきな経験をさせていただいた事に感謝します。

ありがとうございました。

垣内 万智子(歯科衛生士)

『貴重な学び』



私は、東大阪市のヨリタ歯科クリニックに勤務させて頂いております歯科衛生士の垣内 万智子です。

今回、私はヴァヌアツ共和国のタンナ島へJDMの一員として行って参りました。やはり、前回のフィリピン共和国の時と同じワクワク&緊張でしたが、ヴァヌアツ共和国の方々やその人たちを取り巻く方たちの素敵な笑顔に、私の緊張は何処かへ行ってしまいました。そして、歯科医療活動はレナケル病院の一室をお借りして活動をさせて頂きました。そこで私は、歯科衛生士業務である歯石除去や着色除去をさせて頂きました。その時にレナケル病院で勤務されている先生が健診

に来て下さり、私は歯石除去をさせて頂きました。治療が終わった後、先生は「綺麗にしてくれてありがとう!!」って、握手をして下さり、こんなうれしい事は無い!!と感激し胸や瞳が熱くなりました。ヨリタ歯科クリニックで勤務させて頂いている時と同様、患者さんに笑顔で帰って頂く喜びは同じでスゴク嬉しく感じました。

またロウカタイ小学校では、ブラッシングのお話をさせて頂きました。その時、英語を話す事が出来ない言い回しの悪い私の日本語をジャイカの方が子供さんへ英語で一生懸命通訳して下さい、感謝の気持ちでいっぱいです。

ヴァヌアツは人の心が綺麗なだけではなく空、取り分け星空がとても綺麗でした。去年のフィリピンに引き続き流れ星を見ることが出来ましたが、今回も残念ながら願いごとを唱える前に消えてしまいました。

南十字星やミルキーウェイを眺めながら沢田代表のお話「生かされし我が人生」や「文化交流(絵の交換)をする事により、異国の文化や生活の理解を深める事が出来る。」等などは、素敵なお話が一杯詰まった宝石箱みたいでした。

また、最終日にポートヴィラに戻ってジャイカの事務所でヴァヌアツに任務して下さっているご家族の方たちの健診をさせて頂いた時、ブラッシングやフロッシングの重要性をお話させて頂いた時も、ジャイカの方がビシュラム語で通訳をして下さり、感謝の気持ちでいっぱいになり心が温かくなりました。

今回の活動で私は色々な事を気づき、感じ、学ばせて頂きました。また、私の中で少しずつ何かが変わりようとしているようにも感じますが、まだその何かは、私自信わかりませんので少しずつ箱を開けていけたらいいなと感じております。そ

して、私が日本に帰国して思った事は「また、行きたい!!」でした。やはり、ヴァヌアツの方たちの素敵な笑顔や、澄んだ瞳、明るい笑い声、優しい心に触れ、「世界一幸福な国」だという事に納得しました。笑顔の輪の連鎖、本当に素敵でした。

今回ご一緒させて頂いた沢田代表をはじめメンバーの皆さん、ジャイカの皆さん、この地球上で出逢えた事を心から感謝いたします。

最後になりましたが、歯科医療活動をさせて頂ける環境を作って下さっているヨリタ院長を初めメンバーの皆にも心から感謝いたします。最高に幸せです。そして、今なお色々な地域や国で紛争が起きている現実に永遠の平和を祈ります。ありがとうございました。

谷 加奈子(歯科衛生士)

『2009年11月フィリピンでの活動に参加して』

私がこの活動に参加しようと思ったきっかけは、現在勤務している医院の院長先生が誘って下さったのがきっかけでした。以前から院長先生よりこの活動のことは聞いていたのですが、「行ってみたいなあ」と思いながらもなかなか実行に移すところまでいかず時間が過ぎていました。今年で歯科衛生士になって11年目を向かえこのままこの仕事を続けていいのかなど、少し悩んでいた時に誘っていただき、この活動に参加することで自分のなかで何かが変わるかもしれないと思い参加を決めました。



現地に着き診療が始まって患者さんの口を見て 本当に驚きました。残存歯の数が少ないこと、

ほとんどのカリエスがC3からC4だったこと。診療室として教会を借りていたのですが、もちろん日本の診療室のように設備が整っているわけではなく、あるもので出来る限り最善の治療をしなければならないという状況を見て、どれだけ日本が医療という分野で恵まれていたのかを身をもって体感しました。空調もなく汗だくでしたが、本当に充実した時間がすごせました。

私は小学校でのブラッシング指導をさせていただいたのですが、低学年から始まり最後は高学年のクラスになりましたが、そこでいままでのJDMがやってきたことが確実に蓄積されていることがわかり、本当に感動しました。私の今回したことが少しでも蓄積されてくれることを願います。

現地で生活してみて、自分が今まで何気に資源を無駄使いしていたのだなあとおもいました。これからは自分の身の回りにから少しずつ無駄をなくしてゆきたいと思います。

今回私がこの活動に参加するにあたって、誘って下さった院長先生を始め、快く休みを下さった医院のスタッフの皆様にも感謝しています。

本当にありがとうございました。

本当にたくさんのことを学び、吸収することができたと思います。歯科衛生士という職業を通じて自分でも少しは誰かの力になれることもわかり、これからもがんばっていこうと思いました。また参加できたらと思います。

ありがとうございました。

川畑 小夜(歯科衛生士)

『初めて JDM ボランティアに参加させて頂きました』



初めてのカオハガン島は私が想像していたのとは違い、水洗トイレでシャワーも出て、島民のお家や私達の宿泊したお家もきれいで、気持ち悪い生き物がいるわけでもなく、緑がきれいで(特に教会から学校に行くまでの道が好きでした)海と空は青く、夜空の星は最高に綺麗で、そして何より島民の人柄の良さに心が洗われました。

日本では電気や水を当たり前のように使っているなか、大切にしないと皆に迷惑がかかる生活を体験し、当たり前なことの有難さを実感させてもらいました。

歯科活動の中で6歳の女の子の乳歯が全てカリエスで残根状態になっており、(診療所に来る前にトイレで泣いてきた事を聞き)「いったいこの子はどこで噛んでるのだろう」と悲しくなり、私も泣きそうになりました。一方では、11歳の女の子が左右上顎中切歯2本が残根で抜歯という日本では考えられない診療などが次々とあり、ボランティアだけでは歯科治療は成り立たない現実を見ました。歯は大事と認識出来ているカオハガン島の人々が、いつでも頼りに出来る歯科関係の設備がいつかできたら良いと思います。

子供たちは素直で人なつこく可愛くて、すぐ名前を覚えてくれて呼んでくれる度に私も笑顔になりました。JDM で何度もカオハガン島を訪れる方々の気持ちがわかりました。崎山さんがおっしゃる通り「何もなくても豊かな島」に私もまた絶対に訪れたいと思います。JDM の活動に参加させて頂いて、1人では何も出来ず皆で助け合いながらすれば成されていく事を改めて学び、裕福ではないかもしれないけれど笑顔でいれば周りも笑顔になる事をカオハガン島民の方々に教えて頂きました。

初めての参加でオロオロするばかりでしたが、皆さんに助けて頂き感謝しております。ありがとうございました。また、次参加してカオハガン島を訪れている姿をもう妄想しています。ふふふ・・・(*_*_*)

矢田紗希子(歯科衛生士)

『ボランティア活動に参加させていただいて』

カオハガン島の歯科ボランティアに参加させていただいて、子供たちがとても純粋だと感じました。何をするのもとても一生懸命です。歯の治療をするときは自分の治療は嫌がるけれども、他の人が治療をするのは興味を持ってのぞきこんできます。子供たち自身ができそうなことを自らお手伝いしてくれます。

日本から来た人の名前を覚えてくれて何度も呼んでくれたことも感動しました。今回の活動に参加させていただいて、学んだことは、三つあります。

一つ目は新しい視点を持つことができたことです。普段の生活では体験できないこと例えば、電気がな



い、水が制限されていること、食事を調達すること、朝玄関を掃除することなどです。そのことで新しい視点を持つことができました。具体的には、夜明けとともに起き、暗くなると寝る。朝起きたら玄関や自分の持ち場を掃除する。さらに食料は自分たちで海に行って調達する。生活で使う水は雨水を使う。沸かしたお風呂ではなく、シャワーも水。洗濯も必要最小限の水しか使わない。私の生活で、どれだけ資源の無駄遣いをしていることか！と改めて考えさせられました。

二つ目は日本からたくさんの、歯科医院という日本のような環境がなくても器具器材や技術があれば歯を削ることや、入れ歯を調整することなどは、日本と変わらないぐらいの状態で行えることにおどろきました。

しかし、3日間、次は9ヶ月後という時間制限の中で、治療はできることと、できないことがはっきりしています。その三日間の中で最善の方法を選び治療するという事を体験することができました。

三つ目は言葉を越えたコミュニケーションをとることです。

私は、英語も堪能にしゃべれるわけではありません。現地語のサキツ(痛い) イボツ(抜く) パスタ(つめる) 三つの言葉を教えてもらいました。年齢に関係なく、三つの言葉と日本語で、理解してもらえし、こちらでも理解し、治療ができるんだということを経験しました。

このことをつうじて、目的が明確であれば(治療という目的)そのことに必要なキーワードがいくつかあると、誰とでも十分理解しあえるということを経験することができました。

これらの体験を通じて神様からもらったもの(水・食べ物・資源・体)を大切にしていきたいと強く思いました。歯の大切さをもっともっとたくさんの人に伝えていきたいとおもいます。

田岡 杏子(歯科医師)

『フィリピンでの活動に参加して』



今回ボランティアに参加したきっかけは、同じ職場に勤める栗生先生からお話を伺ったことでした。帰ってきた今、私も皆にお勧めしたいくらい、得がたい経験ができ、本当に行ってよかったという気持ちでいっぱいです。

島に上陸したのは、もう日が落ちた後でした。翌朝、明るくなった島を見渡すと、海に囲まれ、光があふれ、緑の木々は元気よく四方八方へと枝を伸ばし、まだ冬の日本とは全く異なる世界がそこにありました。

母屋に集まって、皆で囲む食卓は、とても楽しいものでした。食前・食後に飲み物を選ぶ時、どれも美味しく、名前も珍しく、毎回真剣に悩んで

しまいます。おかげも、素材そのものの良さはもちろん、味つけも日本人の舌にあったもので、全ておいしくいただきました。ゴハンが美味しいおかげで、5日間、体調を崩さず、元気に過ごすことができました

診療初日の午前中、目が回るとはこのことだ、というくらいヘトヘトになりました。島民の口腔内は、JDMの方たちの長年の努力をもってしても、なお、予防をしのぐ、処置を必要とする歯の洪水でした。そして、事前会議で聞いて覚悟していたものの、抜歯の多さには愕然としました。

教会の外に列をなす、治療を必要とする人の数と、限られた時間。当たり前ではあるが、日本のように整っていない診療環境。初めて診療を共にする JDM メンバー。そして何より、歯科医師として未熟な自分の腕。すごく追い込まれたような気持ちになりました。きっとそう感じたのは、私だけではなかったと思います。

お昼休憩に入る時、同じく診療にあたったメンバーと相談しました。

「もし、自分が手をつけて駄目な時は、次の人にバトンタッチしよう。一人で粘って時間をくより、皆の力でなんとかなればいいのだから。」

その取り決めは、私たちの結束を強くしました。出来なかったらどうしようというプレッシャーから、もし自分ができなくても誰かが何とかしてくれる、という心強さになりました。

日本で診療している際に人をあてにするのは、ただの甘えでしかなく、責任感の欠如と見なされるけれど、これだけの人が診療を待っている状況で、出来るか出来ないかも分からないようなことに固執して時間を費やすのは、それだけで誰かの診療を受けるチャンスを奪うことになるのです。

午後からの診療は、午前とは違って変わって流れもよくなり、肉体的な疲労はあるものの、精神的には軽やかになり、充実感すら感じられるようになりました。

余裕が出てくると、周りの状況も目に入るようになり、いかに衛生士さんたちが、細やかなところ遣いでサポートしてくれ、主体性をもって各々が動いているから、一人の力が、何十人分にも相当するような働きをしているのだと気がつきました。

私なんぞが、やっと周りが見え出すもっと前から衛生士さんたちは、歯科医師やら患者さんやら、さらには島民たちの未来のことまで思いを馳せながら、診療にあたってたのだと思うと、頭のさがる思いでした。

また、環境が整っていないという意味では、その最たるものであった技工士さんたちが、そんな状況下でも見せたプロの仕事には、感服しました。

今回のボランティアに参加して、言葉では言い尽くせないような、素晴らしい経験をさせていただきました。チーム医療を肌で感じる事ができたし、環境のせいにせず、常にベストを尽くそうとする皆さんの姿は、おおいに刺激になりました。

今回一緒にさせていただいた、JDM メンバー一人ひとりにお礼を言いたいです。本当にありがとうございました。

中根綾子(歯科医師)

『自分自身を見つめなおす旅』

カオハガンでの生活は、全てが想定外の出来事でした。朝はトッキーと鶏の声で目を覚まし、海から昇る朝日で身支度を整え、初めて出会う島民と笑顔で挨拶を交わし、人懐こい犬と戯れ、壁の無い教会で歯科治療を行い、屈託のない笑顔の子供たちと砂浜で転がり、悲鳴を上げながら雨水シャワーで汗を流し、丸ごとのマンゴーにかぶりつき、宝石箱のような星空の端から端まで流れる大きな天の川を眺め、足元で光る夜光虫に感動し、風通しのとてもよいバンガローで眠る。こんな経験は予想できるわけが無く、何もかもが新鮮で、人としての生き方を考えさせられました。



歯科治療においては、自分の力の無さを痛感させられるばかりでした。周りのメンバーに助けられ、何とかこなしているという状況でした。歯科医師として自分は何をどのように考え、どうあるべきで、何をすべきなのか。自分自身と向き合い、見つめなおすことができました。支えてくださったメンバーの方々には、心から感謝しています。

今回の活動への参加で、物の見方が大きく変わりました。カオハガンの生活自体からも影響を受けましたが、それに加えて、普段それぞれ様々な場所で活躍しているメンバーとのふれあいからも得るものが多く、狭くなりがちだった視野が広がった気がしています。

ボランティア活動は、現地の方々を助けるために行うものだとばかり考えていました。しかし、実際は、私が自分を見つ

めなおし、自分自身のあり方のかんがえるための活動であったと感じています。

次回参加させていただく際には、自分自身の成長のためだけではなく、今度こそ、現地の方々の笑顔のための活動が行えたらいいと、心から思っています。とても素晴らしい経験をさせていただき、ありがとうございました。

最後に、上崎先生、先生のあたたかい御指導にとっても感謝しております。ありがとうございました。

金田 直人(歯科医師)

『フィリピンでの活動に参加して』



歯科医師として初めての海外ボランティアとなりました。知らない土地での海外ボランティア。さらに期待が高まりました。

フィリピン共和国セブ空港には午後7時に到着し、真っ暗闇の海上を船でカオハガン島へ向かいました。船の上から見える満点の星空をながめ、心地よい南国の風に吹かれながら、これから滞在する島を想像すると、とてもワクワクしてきました。

朝が来ると島の全容が明らかになってきました。島から見る風景は、まさに絶景。遠浅の海に点在する島々を眺めながら、視点を手前にもっていくと、すばらしい透明度を誇

る海と、そこに生息する蟹や小魚そして島の地面をゴソゴソと音を立てながら動く大きなヤドカリがいました。

これぞ南国の島や！と大自然を堪能しつつ、第一日目の活動が始まりました。多くの人たちが治療を希望し島の教会に押し寄せる中、言葉も通じないし、治療する姿勢は不安定という新しい環境に最初は戸惑いました。しかし、スタッフの皆さんと協力し合いながら治療を進めることができました。治療では抜歯も多く、なかなか抜けてくれないケースもありました。この環境下でつらい時ほど、冷静になって立ち向かっていくことが、自分の精神力を鍛えることにつながったと思います。スタッフの皆さんからの支援には大変感謝しております。ありがとうございました。

慣れない環境での治療は精神的、肉体的にも疲労が蓄積しましたが、そんな疲れも島の大自然や元気に走りまわっている島の子供たちと接すると自然と癒されていくようでした。この島は私に安らぎを与えてくれました。この島にいる私にストレスという言葉はありません。

活動期間中は天気恵まれ、きれいな夕日や星空をみることができ感動しました。夕日を見ながらのドラム缶風呂は最高。ドラム缶風呂につきながら夕日を眺め、日が沈むと草の間でホタルが光っていました。日の出はどうなのかと申しますと、私は朝が苦手なこともあって島では見ませんでした。幸い、最終日のセブ島行きの船は朝日が昇る前に出船のため、強制起床で拝むことができました。

カオハガン島生活4日目には、島でのレジャー(シュノーケリング)と運動会を楽しみました。南国の海の中は魚たちが戯れ、いつまで見ても飽きない世界が広がっていました。運動会では、島の子供たちが大はしゃぎ。日本風の運動会構成で、パン食い競争や玉入れ、綱引きなどでした。どの種目もオリンピック競技に認定されてもおかしくないくらいの盛り上がりを見せていました。

今回は歯科ボランティアとして、“島の人々に歯科治療を提供する”という意気込みで参加しましたが、この活動はそんなに単純ではなかったようです。島や島の人々からは、自然への愛情や真の心の豊かさを教えてもらいました。日本で生活している私に欠如していた何かが補填されたような気持ちが出て、とても居心地がよかったです。こんな体験ができて本当に幸せ者だと思います。また参加いたします。

八尾市立西山本小学校とレナケル小学校との国際交流

八尾市立西山本小学校

教諭 津崎 恵子

「一期一会」ひとつの出会いからの始まり



21年度の取り組み

昨年度に引き続き6年生を担当することになり、この取り組みをもう一年させていただく機会を与えられたことに感謝しながらのスタートだった。昨年度は、凧やサイコロ、羽子板など、自分たちの作品を通して心のメッセージを伝えることが多かった。6年生になった子ども達に、更に何を学ばせるか……。ということが課題となった。今年度は自分自身を見つめ直し、何が大切なのかを見抜く力をつけさせたい。また、沢田先生の長年にわたる医療ボランティアや青少年育成のための取り組みを通して「自分たちはどう生きるべきか」ということを考えさせたかった。沢田先生の生きざまから何かを感じ取ってほしいと思い、今年度は学期に一回ごとの授業をお願いした。パソコンによる映像などは最小限にさせていただいた。ボランティアを始めたきっかけ、挫折感を味わった頃、感動で胸が熱くなったとき、「引きこもり」や「いじめ」にあった子ども達と共にヴァヌアツの夜空を眺めて語り合ったとき……。数々の体験談をシャワーのように子ども達に浴びせてほしいとお願いした。教科学習の定着は言うまでもないがいろいろな人々の生き方から学ぶということはそれ以上に大切ではないかと考えている。やがて卒業していく子ども達の心がしっかりと耕されることを期待しつつの1年間が始まった。

◎1学期（2009年6月）の授業

「言葉の通じない、文化の違う人たちとの交流で大切なことは何だろう」

相手を理解するとはどういうことか。どう心を通わせればよいのか。自分に欠けているものは何だろう。言葉が通じなくても伝えることができること……。たくさんの課題が見えてきた。授業では、沢田先生が20年以上前に初めて、独立間もないヴァヌアツ共和国を訪れた時の話を聞かせていただいた。

「あまりにも文化の違う国にカルチャーショックを受けました。自分たちが何をしにヴァヌアツへ来たのか、なかなか理解してもらえず冷たい視線を浴びました。しかし、現地の人たちと同じ目線で向き合い、身振り手振りの会話で地道にこつこつと活動が続けました。毎年行く中で、現地の人たちは次第に心を開き打ち解けてきてくれました。きれいに治った歯でしっかり噛めるようになったととても喜んでくれています。お互いに相手のことを思いやると心をつかち合える。言葉はわからないけど気持ちは相手にも伝わります。人間として当たり前のことですね。ここから友情が芽生えるんだと思います・・・。」

友情が芽生える・・・。子ども達は、遠いヴァヌアツの話から次第に自分たちの問題として捉えられる友情についての話になるにつれ、沢田先生の目を見つめながら真剣になってきた。今回、彼らは何を感じ、どんなことを思ったのか・・・。

児童の感想

6月10日に沢田先生が来ました。先生が来てまず、今までのおさらいをしました。その映像に映っていた写真はみんな笑顔で生き生きとしていました。その笑顔を見ると、なんだかこっちまでうれしくなってきました。病院が少なく甘いものが好きらしいので、とても歯がひどくぼろぼろになっていたのには、改めておどろいてしまいました。そんな人たちを、治療するなんてすごいと感動してしまいました。その話が終わって次は沢田先生が「初めてヴァヌアツに行った時」などの話をしてくれました。

先生が初めてヴァヌアツにいった時、ヴァヌアツの島の人々は、とても冷たい目で先生を見ていたけど先生が一生けんめいやると、みんなも沢田先生のことを信頼したようでした。沢田先生はヴァヌアツでロウソクやランプで生活して、とても大変だったと思いました。また、言葉がわからなかったり、水も自然のものしかなかったり、マラリアで死んでしまう子も多く、それも苦勞の一つだったと思いました。でも沢田先生は、同じ目線で会話や治療をしたり、相手を思いやったりしていて、とてもえらいと思いました。

えらいと思ったことはもうひとつあって、人や世のためにボランティアをして、人の心を変えたことです。このことから私が思ったことは、何でも熱心がんばってすると必ず思いは伝わるということです。今日は、いろいろ教えてくださってありがとうございました。次に来られる時がとても楽しみです。

◎2学期(2009年11月)日曜参観での授業

子ども達が行き組んでいることを保護者にも理解していただくため沢田先生に日曜参観授業をしていただいた。また、2学期は自分たちで出来ることとして、「ヴァヌアツに鉛筆を贈ろう」というボランティア活動をしようということになった。全校への発信の仕方をみんなで話し合い、グループに分かれてポスターやエンピツを入れる容器を製作し1年から6年までの各クラスに設置した。児童集会で全校に呼びかけ1234本の鉛筆が集まった。自分たちが誰かの役に立っている、という充実した取り組みだった。参観授業のあと鉛筆の贈呈式を行い、沢田先生が、確かにヴァヌアツに届けてくださるということを約束され、子ども達はそれぞれの思いをヴァヌアツに馳せた。冷たい風が初冬を思わせる中、ヴァヌアツの子ども達が描いた羽子板で先生を交えて羽根つき大会をした。保護者も参加され、あちこち





で歓声が上がった楽しいひと時を過ごすことができた。

実際に交流をしているタンナ島の子ども達の生活の様子は沢田先生が来て下さる度に映像で見せていただいている。子ども達は遥か彼方のヴァヌアツをすぐお隣の国のような感覚で、自分たちの取り組みをつなげながら見ているような感じである。全く異なる文化の

子ども達に思いを馳せながら、自分たちの取り組みがヴァヌアツの子ども達に少しでも役立っている・・・という確認もしているようである。私たちと比べればタンナ島はほんとに不便で生活は厳しく暮らしは大変だと思うが「世界で一番幸せな国・ヴァヌアツ」という意味を考えながら、引き続きエンピツボランティアを続けていきたいと考えている。子ども達が描いた羽子板でレナケル小学校の子ども達が羽根つきをし、向こうの子ども達が描いた羽子板で、今また本校の運動場で沢田先生と一緒に羽根つきを楽しむ・・・。会ったことも話したこともないけれど、目には見えない不思議なつながりを感じる。

歴史で学習した朝鮮通信使の真文役である雨森芳洲の言葉に「欺かず争わず誠信の交わり」というのがある。どんなときにおいても相手の立場に立って誠実でまごころを込めて事を行うことの大切さを説いたものである。ヴァヌアツとの取り組みも根底にあるものは同じであるということ子ども達は気づき始めているようである。子ども達の成長過程の大切な根幹部分をこの小学校の時期にしっかり根を張らせたいと思っている。この学習をしたから〇〇が身につくというものではないが、卒業までの間、コツコツと地道に人としてどうあるべきかを子ども達にわかりやすく、時には厳しく話していきたいと考えている。

◎3 学期（2010年1月）最後の授業

卒業を控えた子ども達は、沢田先生の体験談を真剣なまなざしで聞き入っていた。コツコツと長年かけて取り組んでこられた沢田先生のボランティア活動から、本当に学ぶべきことは「自分はまわりの人々や自然によって生かされ感謝の心を失わず、素晴らしい出会いに感性を磨きこれからどう生きていくか」ということではないだろうか。子ども達の最後の感想文では、それぞれが自分を見つめ直し、しっかりと歩いていく決意のほどがうかがえる。

沢田先生の話聞いて・・・

・今日はお話をしてくださってありがとうございました。最後のお話ということで、しっかりと心で聞きました。その中で心に残った言葉が「きっかけ」と「一期一会」です。ぼくは先生のお話を聞いて、チャンスを待っている人間なんだなあと思いました。だから自分から、動こうと思っています。動いたら、人と会いそこで、きっかけが生まれ、人生が変わるといこともわかりました。人生が変わると、チャンスが生まれ、それを食欲に進むとまたきっかけがうまれるということなんだなあと思いました。そのためにも、ただ、ぼうっと動くだけでなく、積極的に動き、言ったら行動する人間になりたいです。二年間で、沢田先生から教わったことは、これからの人生で、役に立てたいと思います。

・今日はありがとうございました。沢田先生は2カ月半も動けない時があったのに生き続けようとしていたことに感動しました。私なら、生きる力を失っていたと思います。私は沢田先生のような経験をするにはたぶんないと思うけど、しっかり前を見ていきたいと思います。「チャンスは見逃さない」ことも大切だと思いました。日々の中でチャンスはたくさんめぐってくるから、後になってああすればよかった、こうすればよかったと思わないように自分でチャンスをつかみたいのです。後ろを振り返っては進みにくいから、前を見て進もうと思いました。一期一会という言葉にも感動しました。いつももっと良い行いをしていたら、良い人生になっていたかもしれないと時々悔やむ事がありました。でも今日の話聞いて、失敗したおかげでいろいろと出会いがあるのだと思いました。今日は本当にありがとうございました。中学に行ってもがんばります。

・先生の2年間の話を聞いていろんなことを学びました。まず始めに人との出会いのことです。先生の話をしているうちに人との出会いを大切にしていこうという気持ちになってきて、先生はすごいな～と思いました。そしてきっかけ作りをがんばること。チャンスをしっかりとること。そしてぼくの心の中に一番強く残っているのは、人のためにがんばるといこと。人のために一生けんめいになり、人のために汗をかく、そういう人を目指したいです。そして沢田先生の心の強さや広さを見習ってがんばっていこうと思います。もう卒業式でしか会えないのがとても残念です。ぼくは先生に教わったことをしっかり覚えていたいと思います。今日はパソコンではなく、イスに座って話してくれたことがとてもうれしかった。先生のようにみんなにパワーをあげられるようになりたいです。これからも元気に仕事をがんばってください。2年間本当にありがとうございました。

・ぼくは人のために、良い汗をかく、ということが一番印象深く一番ためになりました。何事にもイヤイヤやっているのと、良い気持ちで取り組むのでは、何倍も価値が違うことがよくわかりました。自分もそういう経験が何度かありますが、そこまで深く考えた事はありませんでした。近い将来きっと役に立つことだと思います。あと、自分たちが集めた鉛筆が、ヴァヌアツの子ども達の役に立ててうれしいです。もう沢田先生の授業を受けられないのは残念です。今までありがとうございました。卒業式、楽しみにしててください。



短い時間の中から自分と沢田先生とを重ね合わせながらしっかりと話が聞けていたように思う。子ども達がコツコツと書いた感想文を何度も読み返し、一人ひとりの心の成長を感じ取ることができた。ヴァヌアツ共和国と交流をさせていただいて本当によかったと思っている。

子ども達の卒業式を人生の師である沢田先生が温かく見守って下さった。どの子も自分の夢を堂々と語り、全身の力を振り絞って別れの言葉を読み上げた。美しいハーモニーの合唱に沢田先生も担任も熱いものがこみ上げてきた。

この3月、私たち担任二人は転勤することになった。在職中の半分はヴァヌアツに関わらせていただいた思い出深い西山本小学校にお別れの挨拶をする離任式の日。体育館前には今まで受け持った保護者の方々がたくさん来て下さった。もう中学3年になる子のお母さんは「いまだにヴァヌアツの事を話しています。テレビにヴァヌアツが映るととんできて観ていますよ。」と話して下さいました。何よりうれしい言葉だった。

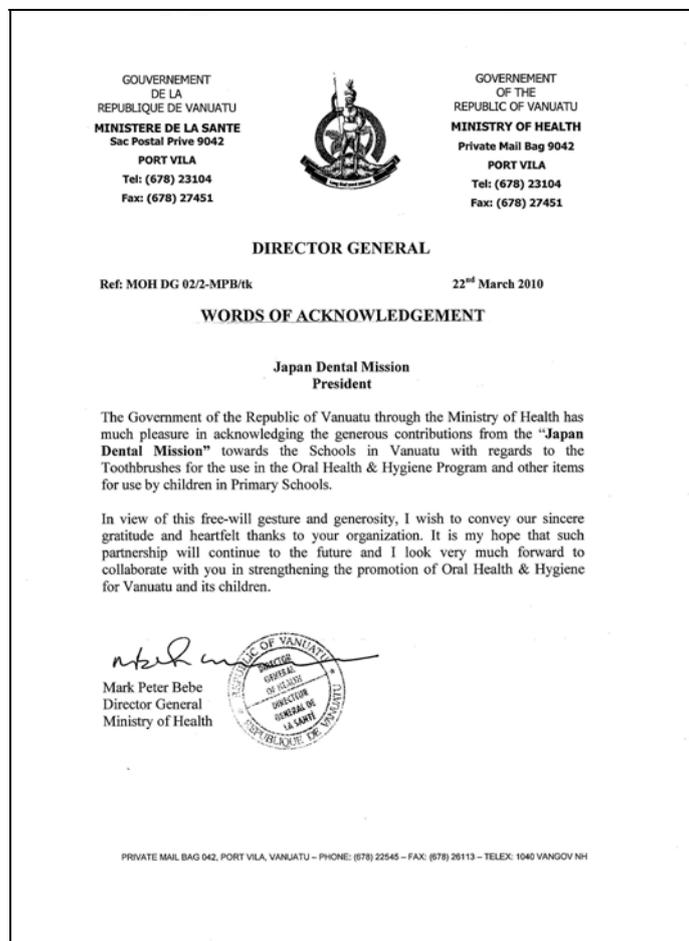
沢田先生のお話の中の「一期一会」・・・。子ども達と保護者の皆さまと沢田先生と私とが長い人生のほんの一瞬、時間を共有できたことに感謝したいと思います。

西山本小学校での4年間、私どもの拙い取り組みを支えて下さった沢田先生はじめ JDM ならびに船場ロータリーの皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



寄付活動

1. 日本の企業、団体、個人の皆様からの多大な寄付品をヴァヌアツ保健省、教育省へ贈呈しました。寄付品の内容は、歯ブラシ、ノート、サッカーボール、バレーボール、文房具、古着、口腔衛生啓蒙ポスター等です。



ヴァヌアツの保健省からの寄付品に対する感謝状

<感謝状の和訳>

感謝状

ヴァヌアツ共和国政府は保健省を通じて、ヴァヌアツの学校への貴方の惜しみない寄付に対して大変感謝致します。

歯ブラシは口腔衛生プログラムのために、他の寄付品は小学校で子供たちのために使います。

この無償で寛大な寄付に対して、心から感謝の気持ちを伝えたいです。

このようなパートナーシップが今後も継続することを望んでいます。

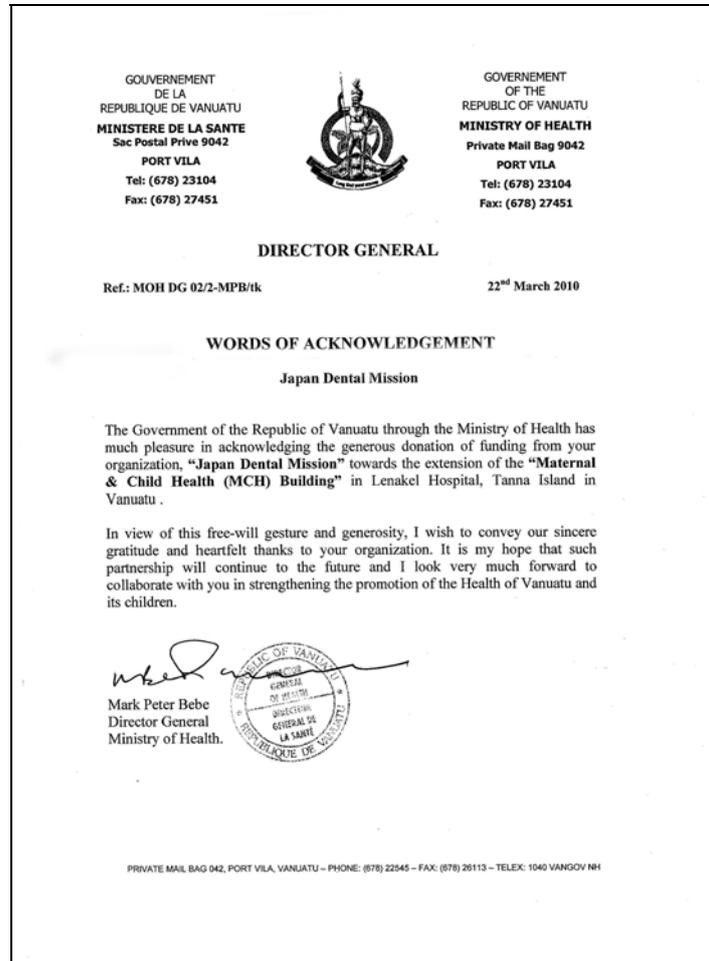
そして、ヴァヌアツと子供たちの健康増進を強めるために貴方と協力することを大変楽しみにしています。

Mark Peter Bebe

保健省次官

2. タンナ島レナケル病院の母子保健センターへの寄付

国際ソロプチミスト・アメリカ・日本中央リジョン大阪－梅田 殿の寄付により、母子保健センターの建物の拡張が行われました。新しく建て増しされた部分は患者の相談室、ファミリープランニングルーム として活用されます。 トイレやシャワールームも設けられています。



ヴァヌアツの保健省からの建物拡張に対する感謝状

<感謝状の和訳>

感謝状

ヴァヌアツ共和国政府は保健省を通じて、タンナ島のレナケル病院の母子保健センター拡張のための貴方の惜しみない資金援助に対して大変感謝致します。

この無償で寛大な寄付に対して、心から感謝の気持ちを伝えたいです。

このようなパートナーシップが今後も継続することを望んでいます。

そして、ヴァヌアツと子供たちの健康増進を強めるために貴方と協力することを大変楽しみにしています。

Mark Peter Bebe

保健省次官

報道関係

2010年3月24日のヴァヌアツTVのニュースで日本からの寄付のセレモニーの様子が放映されました。

また3月27日付ヴァヌアツ Independent 新聞に日本からの寄付の記事が載せられました。

ヴァヌアツ保健省次官からの感謝の言葉が伝えられています。

概要は

他国の人々を助けるために海外のボランティア組織が活動を継続するという事は、簡単なことではない。私はヴァヌアツ政府のために長期に渡り、口腔衛生向上のための援助をして頂いたことに敬意を表します。そして、特に今年はこのような惜しみない寄付をして頂いたことに大変感謝いたします。ヴァヌアツの全ての小学校に行き渡るのに十分な量の歯ブラシや他の寄付品、タンナ島のレナケル病院のMCHビルディング拡張への資金援助、Vila中央病院の酸素製造装置の問題に対する継続的な資金援助の計画、今年6月のサント島での小学校教師や保健関係者に対する口腔衛生のトレーニング、そして恒例のタンナ島、マレクラ等への口腔サービスの提供。これら全てに対し、敬意と感謝の気持ちを伝えます。

JDMチームはVila中央病院の管理者と故障中の酸素製造装置に関するミーティングを行い、日本でも装置の調査をすることを提案した。またJDMチームは教育省次官のRoy Obed氏に会い、学校への物資の寄付を行った。

The Independent

L'INDEPENDANT DU VANUATU

Issue N° 323

27 Mar. - 2 Apr. 2010

news@independent.vu

300XPF (Noumea)

200 Vt
(Port-Vila)

News

Japan/Vanuatu's longest relationship continues to bear fruit

by Evelyn Toa

The Japanese government through its 26 years mutual relationship with Vanuatu, has presented again this year a ton of Japanese aid to Vanuatu's Health sector.

The presentation of the goods was held Tuesday 22 March, 2010, between the Team Leader of the Japan Dental Mission (JDM), Dr. Sawada Munehisa and the Director General of the Ministry of Health, Mark Bebe.

Dr. Sawada reiterated that the JDM's mission is to undertake the dental clinic volunteer's work purposely to help improve oral health, a mission that was launched for Vanuatu since 1983.

JDM's special mission was to provide free treatment, do the dental checks and teach children how to brush teeth, as part of the oral health awareness, particularly in the rural areas of Vanuatu.

"It is also an opportunity for the team to establish a cultural exchange relationship with ni-Vanuatu primary school children through pictures taken in Japan," Dr Sawada said.

In the list of these Japanese goods are tooth brushes, posters on oral health, stationery, sports goods and clothes.

This donation were made possible

through a Rotary Club Company and schools in Japan.

In response, Mr Mark Bebe thanked the JDM for their great heart in continuing to sustain this healthy and mutual relationship over the past 26 years.

"This is not an easy practice for an overseas voluntary organisation to do in light of helping other people in other countries... And I honour your support to the Government of Vanuatu in the development of oral health services in past years and especially thank you for the great gesture you made this year such as; donating sufficient brushes for every single primary school student of Vanuatu and other materials; sponsoring the MCH building extension for Lenakel hospital in Tanna; continuing to raise funds for the Vila Central Hospital Oxygen Plant; providing Oral Health and hygiene training for primary school teachers and community health workers in Santo in June this year and continuing to support regular annual visits to support oral health services in Tanna and Malekula," announced Mr Bebe.

The team had a meeting with the VCH management in regards to the disfunctional operation of the oxygen Plant and has suggested to search for an oxygen model in Japan. The team also met the Director General (DG) of the Ministry of Education Roy Obed and donated materials to schools.



3月27日付ヴァヌアツ Independent 新聞に載せられた記事

国内活動

- 2009年6月10日（水） 八尾市立西山本小学校において6年生に授業
- 2009年6月11日（木） 奈良ロータリークラブにおいて「南太平洋での歯科奉仕活動と青少年育成について」卓話
- 2009年8月10日（月） 大阪船場ロータリークラブにおいてヴァヌアツ共和国での歯科医療奉仕活動について卓話
- 2009年9月 大阪船場ロータリークラブを通じて大阪市中央区の7小学校と昭和中学校ならびに、八尾市立西山本小学校に、ヴァヌアツの子供達の教育発展と識字率向上の為にエンピツを集め寄付することを依頼した。その結果、エンピツ約12,000本をヴァヌアツの子供達に寄付することが出来た。
- 2009年11月15日（日） 八尾市立西山本小学校で6年生に授業。その後エンピツ贈呈式、音楽会、運動場で羽根つきを行う（ヴァヌアツのレナケル小学校の生徒の書いた羽子板にて）
- 2010年1月20日（水） 昭和中学校で父兄を対象に「南太平洋でのボランティア活動と青少年育成」について講演
- 2010年2月8日（月） 大阪船場ロータリークラブにおいて卓話
- 2010年2月10日（水） 八尾市立西山本小学校で6年生に授業
- 2010年3月18日（木） 八尾市立西山本小学校の卒業式に沢田代表が出席



はじめに

これまで私達は、NPO 法人としての Japan Dental Mission の前身である「南太平洋に歯科医療を育てる会」の基本となっていた“ヴァヌアツの人々に喜んで頂きたい”という考えのもと、いろいろな活動を行ってきた。しかしともすればその“気持ち”のみが先行してしまい、後で考えると、逆に現地の人々に混乱を与えてしまったという皮肉な結果を経験することがあった。

そのような反省から、少しは学際的なアプローチが出来ないものかとの声があがり、その中から、時系列で現地の子供たちの口腔内を観察してみようというのがこの報告の出発点である。そのような“思い”から約 10 年が経過した。そこで不十分ではあるが、今まで集めてきたデータをもとに今回、報告を行ってみたい。

ヴァヌアツの人々の顎骨的特徴

今回、ヴァヌアツにおける口腔内の状況(特に若年者)を報告するにあたり、まずその人類学的な分類から考えていきたい。彼らを肌の色の濃さ、特にメラネシアン人は巻き毛の頭髪の形状から、分類としてネグロイドに属するとの先入観を持ってしまいが、実際にはオーストラロイドであり、アフリカ大陸の黒人とは遺伝的にも異なった人種である。現在の所謂オーストラリア人と呼ばれる人は、英国を主とする欧米からの移民の人である事と、混同してはならない。

ではオーストラロイドとしてのヴァヌアツ人の特徴を、上下顎に絞って見て行きたい。勿論、ヴァヌアツ国籍であっても、他国からの移住してきた人々にあてはまるものではない。ヴァヌアツでの歯科検診、歯科治療を行なってきて感じたのは、彼らの顎骨、歯牙の大きさである。上下顎ともよく発達しており、Angle の分類では、class I または class 3 が圧倒的に多く、成人においては歯牙を支える歯周組織も、質、量ともに非常に堅固で、殆どの患者が Maynard の分類で言うところの type I 又は II にあてはまると考えられる。

我々が通常日本で診療している、モンゴロイドは class2 が多く、咬筋の付着部位から見ても、ドリコタイプが多くの割合を占めているように思う。また歯周組織を見ても、Maynard の分類では type3,4 が多いと考えられる(ちなみにコーカソイドでは 80%は Type1,2 と言われている)。

1) 歯周病に関して

以上のような違いから、ヴァヌアツの人々は歯周病に罹患し、進行していく過程も、我々とは異なり、細菌よりも力が主要原因となっているように感じている。その理由は、前項で述べた彼らに class3 気味の顎骨が多い事による。前歯の被蓋(Over bite)が浅く、また咬合力が強い為、前歯の咬耕のスピードが早く、夜間のグライディングや、加齢と相まって一気に臼歯部に干渉が生じ、それが一因となり歯周病が進行していつている。それ故、細菌のコントロール(縁上、縁下のプラークコントロール)でその進行を防止していただくだけでは不十分で、いかに力をコントロールするかが、彼らの歯周病対策の大きなポイントになってくるであろう。

ただ現地の歯科医療従事者達がそのメカニズムをはっきりと理解していない現状では、出来る事は、スクレーピング、ルートデブリダメントを含めた、プラークコントロールの徹底しかないと考えられる。そのようなスキルに関してはある程度のトレーニングで上達が可能であろう。しかし“的確な診断”という面から考えると、行きつくべきゴールは、遙か彼方と思われる。しかし我々は少しずつ行動し、そして啓蒙していく以外に方法はない。

一昨年よりポートヴィラでレクチャーをさせてもらっているが、時間的な制約もあり、その辺りまでのつっこんだ講義までは出来ていないのが現状である。

ある程度、現地歯科医療従事者の理解が得られれば、夜間に装着してもらおうスプリント等、力への対応も実践できるようにしていきたい。

いずれにしても、現地と調整しながら少しずつ前進をしていこうと考えている。

また将来的には、日本と同様細菌検査等も導入し、侵襲性歯周炎か慢性歯周炎かの診断を行い、個々の歯周病に対するリスクの程度を把握し、口腔内にとどまらず、全身的な診査や、喫煙等の生活習慣も含めた見地から歯周病に対応していかなければならないと考えている。

「歯肉にはさまざまな種類がある」



2) 齲蝕に関して

ヴァヌアツにおける齲蝕の大きな要因は、環境因子としての食生活、特にショ糖の消費量に負う所が大きい。近年はヴィラなどの都市部だけでなく、他のエリアにもかなりの勢いで、所謂“甘いもの”が浸透しており、我々が検診を行っているマレクラ島でも、その類の店が次々と出来ている。

一方、生体因子としての口腔内をカリエスリスクという見地から観察してみると、クラウディングやバージョントウスも、我々の人種と比べて少なく、唾液量も我々の感覚では問題はそれほどないと思われる。多くの高齢者と思われる人々の口腔内も診てきたが、我々が日本で直面するような、口腔乾燥症のような患者さんは少ないと感じた。しかし緩衝能や常在菌の種類等は、調べていく必要はあると思っている。この点については、次項の「検診結果から」の項目で述べていきたい。

彼らの齲蝕予防における重要事項は、「ショ糖の消費量及び消費の方法(間隔)が、齲蝕に及ぼす影響」を確実に理解してもらうことである。刷掃指導等と並行して、そのレクチャーをしていかなければならない。

齲蝕に関する問題は、おそらくフィリピンにおいても同様と思う。何か啓蒙プログラムを考えていいかもしれない。歯周病と同じく、遥かな道かもしれないが、出来る範囲で少しずつ進んで行きたいと思っている。図1、

図1-aに示した、ステファンカーブは、言語を越えて、理解しやすい図表と考えており、一昨年から始めたヴィラでのレクチャーでも活用しているが、現地での反応も良好なようだ。

▼ バランスの取れたパターン

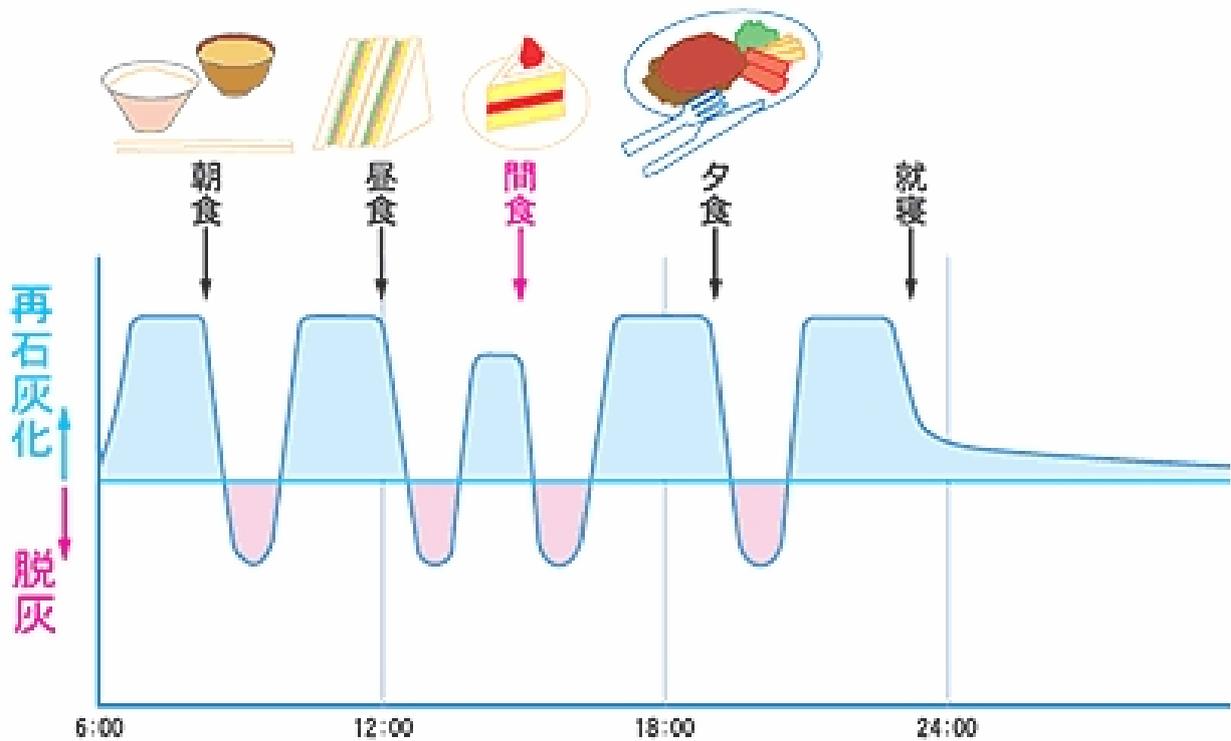


図1

▼ おすすめでないパターン

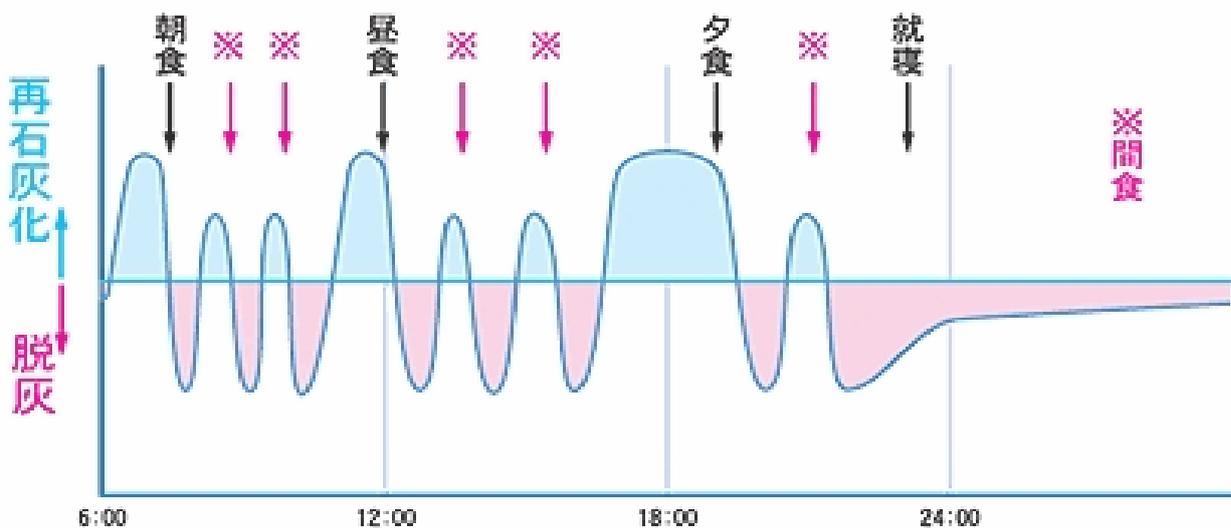


図1-a

(株)サンギ提供

3) その他の歯科疾患に関して

その他の歯科疾患、例えば顎関節等については、観察を行っていないので、報告できる事項はない。機会があれば範囲を広げて観察して行きたいが、現地へ持参できる機材や設備を考えれば現状では不可能と思われる。

4) 検診結果から

- a) DMFindex の問題点
- b) DMFindex から解る事
- c) DMFindex からでは解らない事 (カリエスリスク)
- d) DMFTindex について
- e) 時系列から考えるマレクラ島での乳歯治療

a) DMFindex の問題点

DMFindex とは、D:decay (齲蝕、カリエスとも言う) M:missing (喪失) F:filling(充填)の頭文字をとったものであり、検診した全ての永久歯中の、それぞれの歯の総数である。しかし現地で検診を実施している環境は日本とは違い、ライトもなく、決して良好な環境下ではない。特に上顎の大白歯部の齲蝕は見つけにくい。またエックス線装置がない為、隣接面カリエスの発見は至難の技となっている。現地では見落としの多いような検診に努めているが、限界がありその数字に関して、多少の問題を含んでいることをご理解頂きたい。しかしほぼ同じメンバーが同じ作業をしているという点から考えると、時系列で捉えた変化はある程度信頼に値すると考えている。ただ、日本で実施されているそれとは精度という面では劣っていると言わざるを得ない。

b) DMFindex から解る事

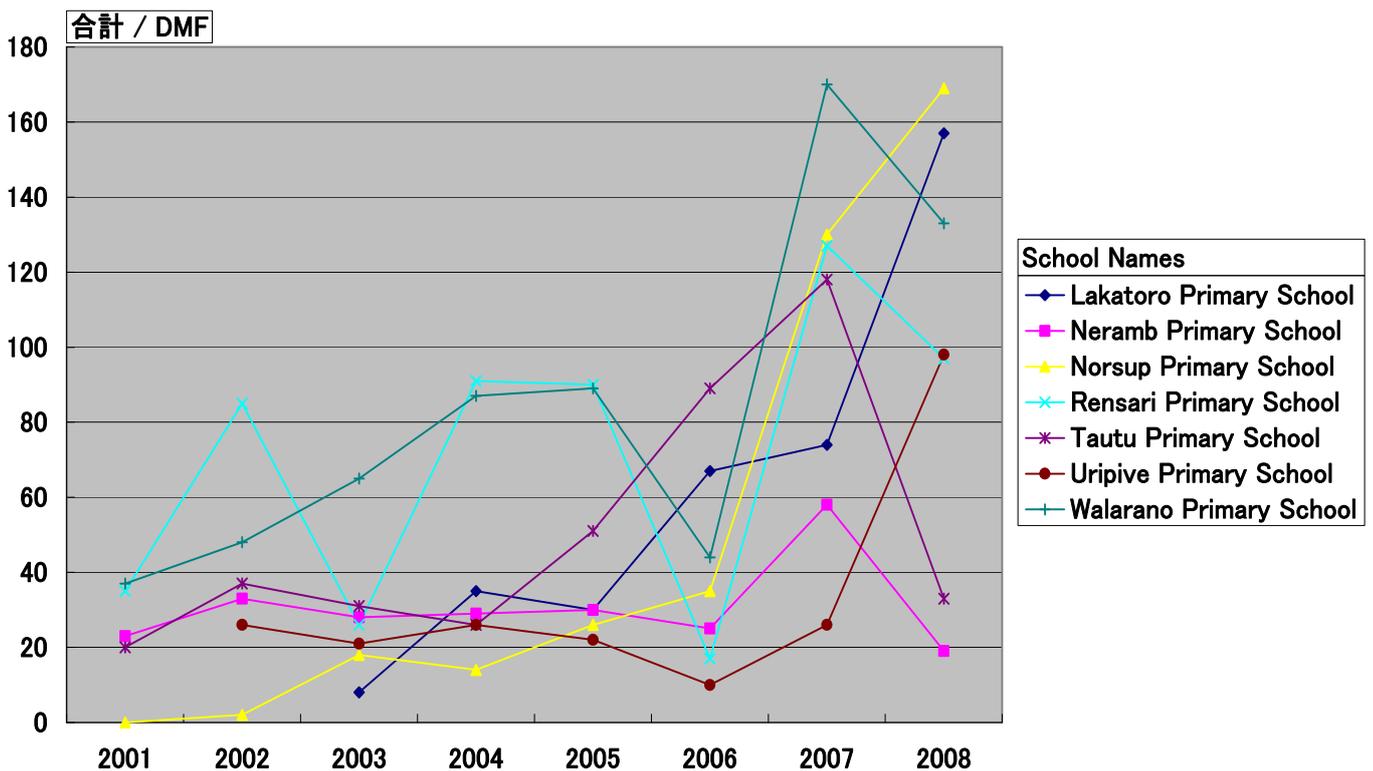


図2

過去約 10 年にわたる検診において、図 2 のグラフから解るように DMF の総数は右肩上がり増加している。特に D,すなわち齲蝕が著しく増加傾向にあり、M や F はあまり数字に変化がなく、検診人数もほぼ横ばいであることから、一人一人の口腔内の齲蝕は確実に増加していることになる。

ヴァヌアツ、特にマレクラ島においては、「砂糖は富の象徴」的なイメージをうける。今まで飲んだり食べたりした事のなかった、文明の香りがする嗜好品を、裕福な者がこぞって購買し、それを食する事がステイタス、

というような図式が見えるような気がする。しかしかつての日本もそうであったように、一度はその過程を踏み越えていかずには、「健康であることの方がステイタス」という気付きは生まれてこないであろうと考えている。

そう考えれば、齲蝕もしばらくは増加の一途をたどるであろう。我々ができる事は、現在率先して、砂糖を大量に消費している、所謂裕福な者や、知識人とよばれている人達を相手に、口腔衛生のあり方や、真の賢者は自分で自分の健康を守りそして築き上げられる、ということ啓蒙し続ける事になってくる。

一昨年から現地で始めた、学校関係者や医療従事者対象のレクチャーは、そのような思いから生まれてきた。

c) DMFindex からでは解らない事

この値は、あくまで総数である。その為、所謂“偏り”がこの数字からは読み取することは出来ない。例えば 100 人の被検者のうち、1 人の被検者の口腔内に 5 本の DMF 歯があり、他の 99 人が DMF 歯 0 であったとすると、DMF 歯は 5 になる。翌年、やはり 99 人が DMF 歯 0 で、1 人の DMF 歯が 10 になれば、トータルとしては 2 倍になったことになる。しかし 1 人をのぞいた 99 人には変化がなく、問題も発生している訳ではない。事実、検診の継続の中から解ってきたのは、「特定の被検者が多くの DMF 歯を抱えており、他の多くは問題がない」ということであった。疫学調査を行い、それを文献として引用する際にも十分に気をつけなければならないと考える。

d) DMFTindex について

DMFTindex とは、被検者全員の DMF 歯の合計／被検者数 である。すなわち 1 人平均、何本の DMF 歯があるか ということである。この数値を表にしたのが表 1 である。経年的に 1 人あたりの DMF 歯の数は増加傾向にある。DMFindex が増加しているのであるから当然ではある。

この表を少し掘り下げて見て行くと、興味ある事柄が解ってくる。例えば、UripivP.S.の 2008 年は、1.0 という高い数値を示している。しかしカルテをチェックすると、3 名の被検者で 28 本の DMF 歯(すべて D 歯であった)が存在していた。この 3 名をデータから外すと、DMFTindex は 0.65 という数字になってくる。C)項でも述べたが、検診の目的として、全体の値を重視する必要性はもちろんであるが、もう一つ大事なことは、個々のカルテをチェックし、リスクの高い被検者を特定し、そしてその人々を重点的にフォローアップしていくことである。

次に我が国における DMFTindex とヴァヌアツのそれとを比較してみたい。その数値は大きくかけ離れていることがわかる。これは、DMF のうちの F、すなわち Filling が日本で圧倒的に多いという事である。D のみに焦点を絞れば、おそらく両国でそれほど差はないと考えている。逆に考えれば、日本においては、予防という名の下、過剰な歯科治療、すなわちオーバートリートメントが行われていると考えられる。

事実小臼歯咬合面に限局した充填に関しては、充填の有無に関わらず、歯牙の生存率に差はないというエビデンスが確立している。極論すれば、両国の DMFT の大きな差は、日本には歯科医師が過剰に存在している事に起因しているという結論になってしまう。

DMF 歯率

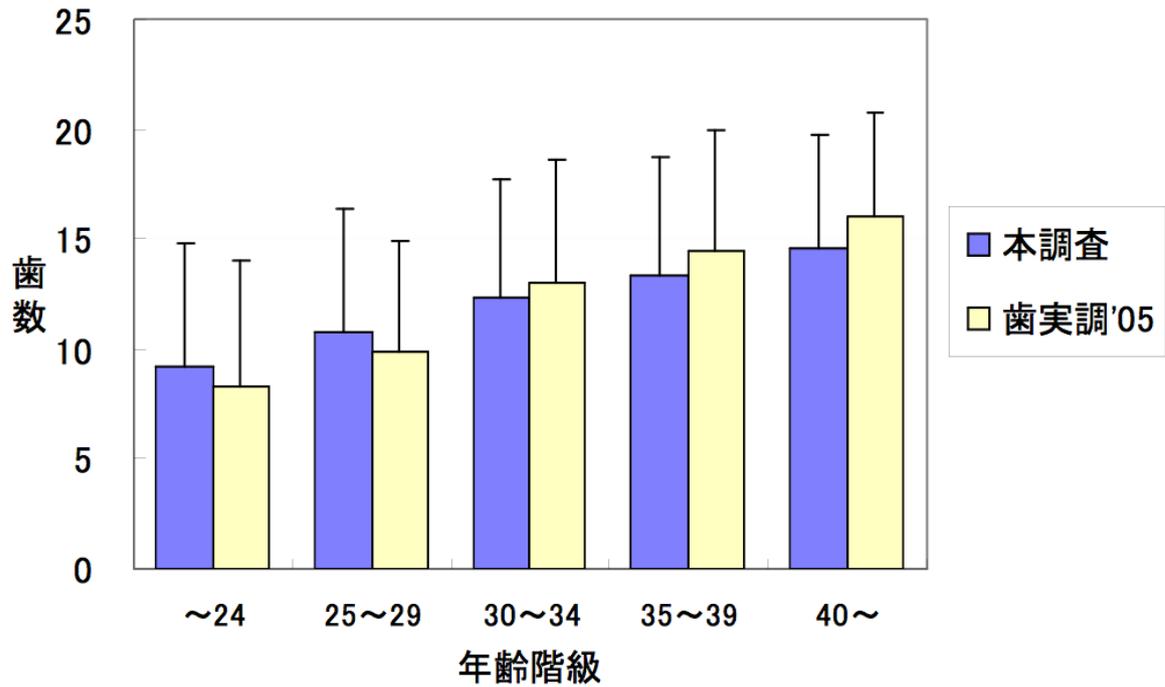


図3 (全国成人歯科保健調査報告書 8020 推進財団より抜粋)

Change of DMFTindex

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008
Lakatoro P.S.			0.0	0.2	0.2	0.4	0.2	0.4
Neramb P.S.	0.1	0.1	0.1	0.2	0.1	0.2	0.3	0.4
Norsup P.S.	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.3	0.2
Rensari P.S.	0.3	0.3	0.2	0.4	0.3	0.2	0.4	0.4
Tautu P.S.	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.5	0.5	0.2
Uripiv P.S.		0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.2	1.0
Walarano P.S.	0.1	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.4	0.2

表1

e) 時系列から考えるマレクラ島での乳歯治療

我々はこの検診を開始した当初、現地で齲蝕を見つけた場合、可能な限りその場で処置をしてきた。言い換えれば、アンキローシスをおこしたような永久歯の残根や歯髄炎は手をつけず、もっぱらその場で出来る乳歯の抜歯や充填をしてきたという事である。しかし中には泣いたり暴れたりして乳歯処置が出来ない子供達も存在した。そうした状況で経年的に観察を続けていると、前年や前々年に残根の抜歯や充填をさせてくれなかった子供達が、きれいな永久歯列になっている症例を数多く見るようになってきた。

一般的に乳歯の処置はいくつかの理由から非常に大切であると言われている。その主なものを挙げておく。

ターナーの歯とその成因

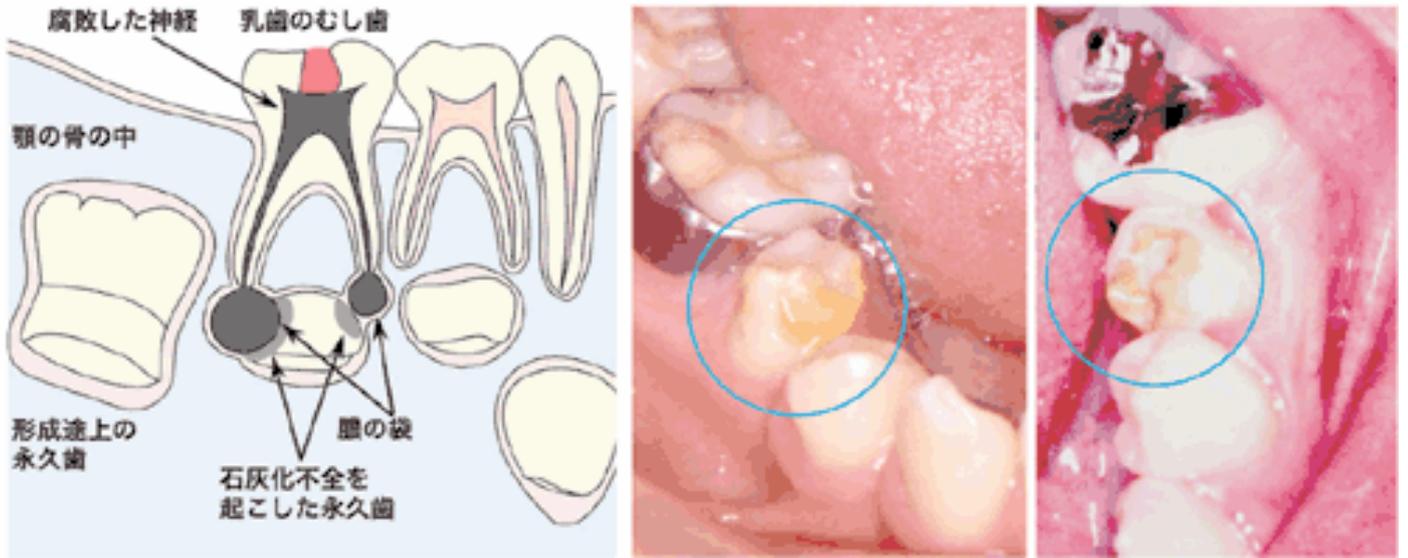


図4

さらに、乳歯の奥歯のむし歯を放置した場合、かみ合わせのバランスが崩れて、永久歯が生えてくる場所が無くなり、かみ合わせが乱れてしまいます。子どもの健全な身体を育成するためにも、むし歯の治療はきちんと行うことが大切です。

むし歯を放置した時の永久歯のかみ合わせへの影響

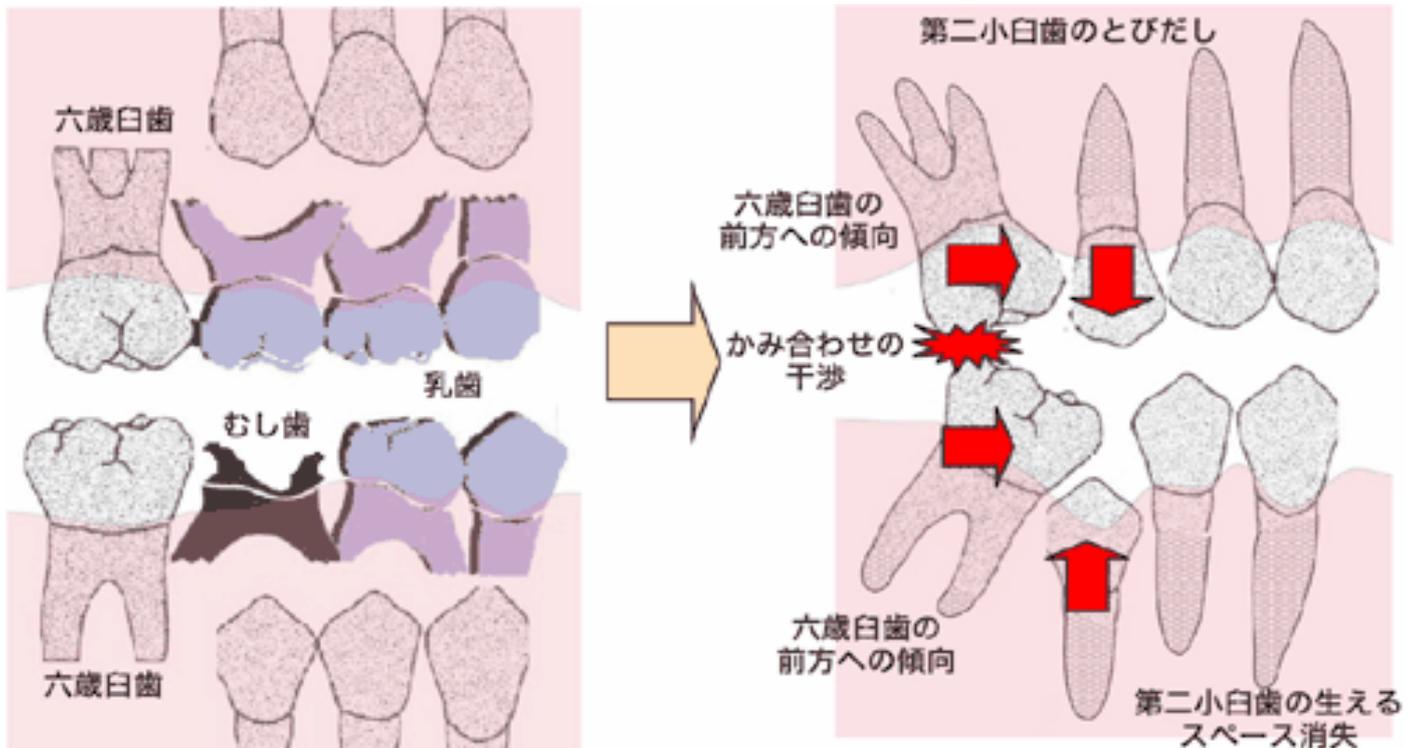


図5

① 小学校4～6年生の10.9%(155人中17名、小臼歯を対象)にターナー歯と考えられる形成不全歯が認められた。

本田丘人、中村公也ら：乳臼歯重度う蝕に起因する小臼歯形成不全の出現頻度、口腔衛生会誌、46：332-338、1996。より引用改変

② 小学校4～6年生の9.5%(590人中56名、全歯を対象)にターナー歯と考えられる形成不全歯が認められた。

以上の様な根拠から、乳歯治療を行うわけであるが、我々の現地での経験では所謂“ターナーの歯”を認めることは殆どなく、上記の資料の中で書かれている程の頻度ではないように感じている。今後、ターナーの歯の出現頻度を数字として出してみたいと思っているが、データには人種による格差も存在することは、他の歯科の論文でも明らかであり、また歯科でも近年は E.B.M.(Evidence Based Medicine)から臨床実感を重要視されるようになってきている。以上、総合的に考えると我々の結論としては、

乳歯の処置に関しては、検診時にたまたま疼痛、腫脹といった症状が出現している場合をのぞいて、あえて積極的に治療に踏み込むことは避けた方が、無難である。ということになった。

まとめ

発展途上国のヴァヌアツでは、戦後の日本が経験してきたのと同じ道りをたどることになるであろう。であれば、我々は自らの体験と重ね合わせ、少しでも彼らに、「同じ轍を踏ませる」ことがないように、客観的な状況を彼らに説明して、理解してもらえるように努めたい。

終わりに

「知らない海外に行ってみよう」という極めて単純な理由からヴァヌアツへ行き始めて、気がつけば 15 年が過ぎた。その間、周りの方々からは、励ましの言葉も多く頂いた。またその逆に批判的な声もあったのも事実である。しかし自分自身で振り返れば、いろいろ勉強になったなあというのが実感である。現地の人々にどれだけお役にたったかは解らないが、訪問する度に暖かく迎えてくれる友人も増え、人生の大きな財産になったと感じている。今後どこまで出来るか解らないが、自分のスタンスを見失わないようにしながら継続して行きたいと思っている。

今回の報告は、多くの方々の協力なしでは出来なかった。ソフトを作って頂いた当会理事の栗山さん、集めたデータを細かく入力してくれた、僕といつも一緒にヴァヌアツへ行ってくれているスタッフの皆さん、また、現地ではいろいろなサポートを快く引き受けて頂いている、マレクラ島のノルスープ病院や教育事務所のスタッフの方々や、現地駐在の JICA の皆さん、特に通訳としてのお世話を下さる國和まさ子さん、そしてこの検診にあたり、学校選択のアレンジにご助力頂いたジョンカルキ氏、既に故人となられたエドモンド氏、その他多くの関係者の方々にお礼を申し上げたい。最後に代表理事の沢田先生にこの場をかりて深謝させていただきます。



ジャパン デンタル ミッションについて

Year	沿革
1982	歯科医の沢田が理事を務めていた社団法人南太平洋協会を通じてヴァヌアツ共和国の事を知る
1983	眼科医の岩崎氏と共に“ヴァヌアツに医療を送る会”に歯科医師として沢田が、ヴァヌアツ共和国で活動を開始
・ ・ ・	沢田は、一人で活動を続けていたが、現地の人たちの口腔内の機能回復を目的として歯科技工士に同行してもらい、歯科衛生士や一般のボランティアへと参加者層が広がり参加者が増えてくる事となる。
1995	活動内容の拡大のため「NGO南太平洋に歯科医療を育てる会」を設立
1996	フィリピン共和国カオハガン島のオーナーである崎山克彦氏からの依頼を受け、カオハガン島での歯科医療活動を開始
・	ヴァヌアツ共和国に年2回、フィリピン共和国に年2回の活動を継続している。
2003	組織をNPOとし、名称を「NPO法人ジャパン デンタル ミッション」に変更
2004	ヴァヌアツ共和国保健省とJDMの現地における歯科医療サービスについて合意、調印を結ぶ。
現在に至る	

ジャパン デンタル ミッション活動方針

1. 歯科医療活動

・ヴァヌアツ共和国における歯科医療活動

マレクラ島、タンナ島において、中心となる病院を拠点として診療活動を行っています。また、病院の周辺の小・中学校に行き歯科検診及びブラッシング指導を行っています。

・フィリピン共和国における歯科医療活動

カオハガン島において、簡易診療所を中心に診療活動を行っています。島内にあるカオハガン幼稚園・小学校に歯科医師・歯科衛生士・ボランティアのチームで歯科検診並びにブラッシング指導や染め出しを行い歯の磨き方を指導しています。

2. 文化交流活動

・絵画交換

ヴァヌアツ共和国、フィリピン共和国の両国に日本から画用紙や絵の具、クレパスを寄贈し、子供たちに絵を描いてもらいます。その絵を、日本に持ち帰り絵画展を様々な所で行い、文化の交流を図っています。

また、白地の鯉のぼり、凧、羽子板などに日本とヴァヌアツの子供たちが絵を描き、交換しました。

3. 生活向上活動（派遣国の生活のQOLがより向上するための活動）

・文房具、スポーツ用品の寄贈

歯ブラシ、文房具、スポーツ用品などの寄贈も行い、現地の子供たちの識字率の向上、学業支援や健康促進を考えております。

・運動会の開催

フィリピン共和国カオハガン島において、島民たちとのふれあいの意味も込めてJDMスタッフと一緒に運動会を行っています。

4. 青少年育成

精神的に問題を抱えた人達に海外活動に参加してもらい、生きることへの活力を養うためのキッカケ作りをするお手伝いをしています。

協力者名簿

- ・ 青木林業
- ・ (株)アド・ダイセン
- ・ アベ・ラベリング
- ・ 大阪歯科大学 口腔衛生科
- ・ 大阪市立開平小学校
- ・ 大阪市立昭和中学校
- ・ 大阪市立高津小学校
- ・ 大阪市立玉造小学校
- ・ 大阪市立中央小学校
- ・ 大阪市立中大江小学校
- ・ 大阪市立南大江小学校
- ・ 大阪市立南小学校
- ・ 大阪船場ロータリークラブ
- ・ 大阪南太平洋協会
- ・ 大阪府歯科医師会
- ・ 尾崎歯材(株)
- ・ 川西市歯科医師会
- ・ 関西国際交流団体
- ・ 関西学院中学部
- ・ 北野商店(株)
- ・ 牛乳石鹼共進社(株)
- ・ 清原(株)
- ・ クリエイト(株)
- ・ グラクソ・スミスクライン(株)
- ・ 国際ソロブチミスト大阪-梅田
- ・ コクヨ S&T(株)
- ・ サクラクレパス (株)
- ・ 沢井製薬(株)
- ・ 沢田歯科
- ・ サンスター(株)
- ・ (株)システムつう
- ・ (株)ジャックス
- ・ シンク(株)
- ・ 甚田会計事務所
- ・ スポーツネットワークジャパン
- ・ 住之江歯科医師会
- ・ スモカ歯磨(株)
- ・ セイコーエプソン(株)
- ・ セキセイ(株)
- ・ 全日本ブラシ工業協同組合
- ・ 曾和繊維工業(株)
- ・ 大日本除虫菊(株)
- ・ 大平工業(株)
- ・ 太洋旅行(株)
- ・ 嶽北歯科
- ・ タナベスポーツ(株)
- ・ つるや(株)
- ・ トキワ(株)
- ・ 有限会社トリビ
- ・ ナカガワ(株)
- ・ 南総工業(株)
- ・ 西澤歯科医院
- ・ ニッタハウス(株)
- ・ 日本歯科医師会生涯研究課
- ・ 根来(株)
- ・ 白水貿易(株)
- ・ ハグルマ封筒(株)
- ・ (有)ハマダデンタルサプライ
- ・ (株)林
- ・ 樋口材木店(株)
- ・ 樋口歯科医院
- ・ 平田歯科医院
- ・ 不二印刷(株)
- ・ ヘリテック・アイコニックス・ベンチャース(株)*
- ・ 蛍印刷(株)
- ・ モリタ(株)
- ・ 八尾市立西山本小学校
- ・ 八尾ロータリークラブ
- ・ 矢田化学(株)
- ・ 八千代オート(株)
- ・ 山貴産業(株)
- ・ 山本歯科商店
- ・ ユー・エフ・オー(株)
- ・ 陽春園(株)
- ・ 吉竹歯科医院
- ・ DENTRADE
- ・ Greenpath Corporation
- ・ JICAヴェアヌアツ支所
- ・ NPOセンター
- ・ TKX(株)
- ・ UHA味覚糖(株)

個人協力者

- ・ 池内 正彦
- ・ 内田 千代子
- ・ 大磯 隆一
- ・ 大嶋 捷正
- ・ 太田 暁子
- ・ 沖 真一郎
- ・ 奥内 由見子
- ・ 斧原 周子
- ・ 欠野 アズ沙
- ・ 片岡 清夫
- ・ 神原 正樹
- ・ 川田 修弘
- ・ 川田 昌美
- ・ 木下 マスエ
- ・ 阪上 勝利
- ・ 崎山 克彦
- ・ 佐々木 孝子
- ・ 佐野 清
- ・ 沢井 武清
- ・ 白井 淳二
- ・ 新川 幸次郎
- ・ 鈴木 しげ子
- ・ 園山 春二
- ・ 竹内 智子
- ・ 竹林 和彦
- ・ 武安 俊子
- ・ 田坂 修
- ・ 出井 晴雄
- ・ 中野 栄津子
- ・ 西 京子
- ・ 西澤 永子
- ・ 西村 文延
- ・ 新田 昌男
- ・ 橋本 雄司
- ・ 林 怡久雄
- ・ 濱口 綾子
- ・ 樋口 淳一
- ・ 平田 実
- ・ 宮崎 キミ子
- ・ 森山 秀介
- ・ 山田 一郎
- ・ 山田 登紀子
- ・ 吉本 晴彦
- ・ 渡辺 忠之

2010年度海外活動予定

参加のジャンルは、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、一般ボランティアとなっておりますが、どなたでも参加できます！現地での仕事はたくさんあります！皆様のご参加をお待ちしております。詳しくは、ホームページ <http://www5.ocn.ne.jp/~jdm> をご覧下さい。

日 程

ヴァヌアツ共和国		
チーム名	日 程	締切日
6月チーム (サント島)	2010年 6月20日～6月26日	
7月チーム (タンナ島)	2010年 7月10日～ 7月19日	2010年 5月31日

フィリピン共和国		
チーム名	日 程	締切日
11月チーム	2010年11月19日～11月24日	2009年 9月30日
2月チーム	2011年 2月 8日～ 2月13日	2009年12月31日

募集人員

歯科医師	約3名前後
歯科技工士	約3名前後
歯科衛生士	約3名前後
ボランティア	約3名前後

参加費用参考

科 目	ヴァヌアツ共和国	フィリピン共和国
	金 額	金 額
航空運賃 *1	約20万円前後	約8万円前後
滞 在 費	なし	なし
海 外 傷 害 旅 行 保 険 代	約1万円(任意)	約7千円(任意)
ユニフォーム代 *2	3千円	3千円
合 計	約 21 万円前後	約 9 万円前後

*1:航空運賃は時期により変動します

*2:持っていない方のみ

理事紹介



代表理事 沢田 宗久
沢田歯科
院長



副代表理事 栗山 雅行
バリテック・アイコニックス・ベンチャーズ(株)
代表取締役



理 事 吉竹 弘行
吉竹歯科
院長



理 事 河内 光明
沢田歯科
歯科技工士



理 事 田中 良明
上がり口歯科医院
歯科技工士



理 事 小西 あゆみ
大谷歯科
歯科衛生士



理 事 森田 朋美
広川歯科医院
歯科衛生士



理 事 上崎 秀美
上崎歯科
院長



理 事 吉井 照子
日本放送協会
大阪放送局



理 事 富田 真仁
富田まひと歯科
院長



2010年 6月 10日 発行

発行者 NPO法人ジャパン デンタル ミッション

〒542-0085

大阪府中央区心斎橋筋 1-5-28 心斎橋コアビル 沢田歯科内

TEL:06-6252-0118 FAX:06-6252-5351

URL:<http://www5.ocn.ne.jp/~jdm/index.html>

E-mail:jdm@themis.ocn.ne.jp

* 本書の一部または全部を無断で複製、転載引用することを堅く禁じます。